

令和2年度

芸術文化振興基金 文化芸術振興費補助金 助成事業事例集



独立行政法人 日本芸術文化振興会

目次



芸術文化振興基金助成事業

助成対象者インタビュー

認定特定非営利活動法人 エク・プロジェクト

舞台芸術・美術等の創造普及活動

- 1 現代舞台芸術創造普及活動（音楽）**
守屋純子オーケストラ 2021 年定期公演 Moving Onward : Big Band in a New Era
守屋純子オーケストラ
- 2 現代舞台芸術創造普及活動（舞踊）**
ダンスブリッジ 2020
セッションハウス企画室
- 3 現代舞台芸術創造普及活動（演劇）**
風姿花伝プロデュース vol.7 『ミセス・クライン』
合同会社 風姿花伝プロデュース
- 4 伝統芸能の公開活動**
創邦 21 第 17 回作品演奏会
創邦 21
- 5 美術の創造普及活動**
ライフ 生きることは、表現すること展
公益財団法人 熊本市美術文化振興財団
- 6 多分野共同等芸術創造活動**
谷川俊太郎展
公益財団法人 熊本市美術文化振興財団

国内映画祭等の活動

- 7 国内映画祭**
第 14 回 田辺・弁慶映画祭
田辺・弁慶映画祭実行委員会
- 8 日本映画上映活動**
没後 50 年 映画監督・内田吐夢
日本映画大回顧展上映実行委員会

地域の文化振興等の活動

- 9 地域文化施設公演・展示活動（文化会館公演）**
アーサー・ビナードが語る紙芝居
「ちっちゃい こえ」 & ヒロシマのこころコンサート
公益財団法人 広島市文化財団（広島市東区民文化センター）
- 10 地域文化施設公演・展示活動（美術館等展示）**
北前船の華—北海道に渡った九谷焼（小樽・後志編）
小樽市（市立小樽美術館）
- 11 歴史的集落・町並み、文化的景観保存活用活動**
桜川市真壁伝統的建造物群保存地区 災害復旧事業の記録
桜川市
- 12 民俗文化財の保存活用活動**
小津神社長刀踊りの記録作成
三宅町小津神社祭礼委員会
- 13 アマチュア等の文化団体活動**
船橋フィルハーモニー管弦楽団 創立 40 周年記念 特別演奏会
船橋フィルハーモニー管弦楽団
- 14 伝統工芸技術・文化財保存技術の保存伝承等活動**
染織祭衣装復元活動
公益社団法人 京都染織文化協会



文化芸術振興費補助金助成事業

舞台芸術創造活動活性化事業

- | | | |
|----|----------------------------------|------------------|
| 15 | 音楽
日本音楽集団 第230回～第232回定期演奏会 | 特定非営利活動法人 日本音楽集団 |
| 16 | 舞踊
石井智子スペイン舞踊団公演『みだれ髪』 | 有限会社 グランピア |
| 17 | 演劇
現代韓国演劇2作品上演『獣の時間』『少年Bが住む家』 | 有限会社 名取事務所 |
| 18 | 伝統芸能
女流義太夫演奏会 | 一般社団法人 義太夫協会 |
| 19 | 大衆芸能
浪曲定席木馬亭 | 一般社団法人 日本浪曲協会 |

国際芸術交流支援事業

- | | | |
|----|---------------------------------|--------------------|
| 20 | 国際フェスティバル／舞踊
横浜ダンスコレクション2021 | 公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団 |
|----|---------------------------------|--------------------|

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

- | | | |
|----|---|-------------------------------|
| 21 | 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業
創造都市＝クリエイティブ・シティ実現に向けた『北九州芸術劇場・長期ビジョンに基づく中期計画』 | 公益財団法人 北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場 |
| 22 | 地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業
地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業（公演事業・人材養成事業・普及啓発事業） | 公益財団法人 水戸市芸術振興財団 水戸芸術館 |
| 23 | 劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業
子午線の祀り | 公益財団法人 兵庫県芸術文化協会 兵庫県立芸術文化センター |

映画製作への支援

- | | | |
|----|------------------------|---------------|
| 24 | 劇映画 特別
花束みたいな恋をした | 株式会社 リトル・モア |
| 25 | 劇映画 A
あの頃。 | レスパスビジョン 株式会社 |
| 26 | 記録映画
名付けようのない踊り | 株式会社 スカイドラム |
| 27 | アニメーション映画
ジョゼと虎と魚たち | 株式会社 KADOKAWA |

- 参考 芸術文化振興基金への御案内
- 芸術文化振興基金による助成
- 文化芸術振興費補助金による助成
- 文化芸術活動に対する助成システムの機能強化について

音楽の力と必要性を再確認したコロナ禍 日本のクアルテットの豊かさを伝えたい

助成金を利用したことがない人にとって、不安なことは多いと思います。そこで、2020（令和2）年度の舞台芸術創造活動活性化事業（音楽）の助成を受けた特定非営利活動法人エク・プロジェクトさんに、助成制度を活用した体験や、コロナ禍における団体の活動、未来について語っていただきました。

認定特定非営利活動法人 エク・プロジェクト

助成金額 455千円

プロフィール

認定特定非営利活動法人エク・プロジェクト：1994年、弦楽四重奏団「クアルテット・エクセルシオ」を結成。2004年、音楽NPO「エク・プロジェクト」を組織。2009年、「特定非営利活動法人エク・プロジェクト」設立。「クアルテット・エクセルシオ」（西野ゆか、北見春菜、吉田有紀子、大友肇）を中心メンバーに、正会員、賛助会員などで構成。2020年4月10日、東京都より認定特定非営利活動法人格を取得。

活動概要

日本では希少な常設の弦楽四重奏団として、全国で年間60回を超える公演を開催し、室内楽の魅力を伝えるべく演奏活動を行っている。2000年、パオロ・ボルチアーニ国際弦楽四重奏最高位ほか、受賞多数。2010年～2016年、サントリーホール室内楽アカデミーのコーチング・ファカルティを務めるなど、後進の指導にも積極的に取り組んでいる。

〒113-0023 東京都文京区向丘1-3-1-301
e-mail: quartet-excelsior@m4.dion.ne.jp
URL: <http://www.quartet-excelsior.jp/>

助成実績

2020年は、クアルテット・エクセルシオ第13回札幌定期演奏会（2020年7月1日、札幌コンサートホールKitara小ホール）、第16回京都定期演奏会（2020年11月13日、京都府立府民ホールアルティ）、第38回、第39回東京定期演奏会（2020年6月7日、11月8日、東京文化会館小ホール）が助成対象活動となったが、第38回東京定期演奏会は新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、公演中止。

申請から助成決定

▶ 上質な室内楽を届ける意義

—— なぜ助成を受けようと思われたのですか。

大友 団体としては今年で結成28年になりますが、2009年からはNPO法人として活動しています。皆さんに上質な室内音楽をお届けすることは、ある意味、社会に対する公共的な事業と言えるのではないかなど。そこで公的な助成をいただいて、継続的な活動を行っていきたく考えました。

—— 提出書類を揃えたり、申請書に記入したりといった作業はご苦労されませんか。

大友 民間の助成団体への提出書類に比べると、飛び抜けて緻密な作業ですね。確かに大変ですが、公共のものである以上、必要なことだと思います。書類に書



▲クアルテット・エクセルシオ ©小倉直子

くために思考をまとめる際、言葉にすることで自分たちの活動の意義を改めて認識したり、新しい考えが浮かぶきっかけにもなりますし。何事もプラスに考えるようにします（笑）。

—— 助成金によって実現できていることは？

大友 クアルテットは4人ですが、定期演奏会のための練習は2カ月近く行います。我々が目指しているのは家族のようなメンバーと一緒に、どのように音を重ね合わせていくのか、毎年何回か行う定期演奏会でその進化をお見せすること。それができるのは日本では珍しい常設のクアルテットならはだと自負しています。助成によって長い練習期間もカバーできるのはありがたいですね。

—— 法人格を持ち、社会保障制度も整備されているそうですね。演奏団体としてはあまり多くないのではないのでしょうか。

大友 そうかもしれません。NPO 法人化は理事長の勝村務による提案でした。

勝村 特定非営利活動法人にすることで、クアルテット・エクセルシオを応援したいという方たちにも、活動に参加していただく機会が広がると考えたんです。「演奏する人と、聴く人」という関係性だけではなく、税理士さんにアドバイスをもらえたり、演奏会を企画しようという方も出てくる。色々な関わりが増えるほうが、団体としての活動の幅も広がると思っています。今回のコロナでは会員の方たちが我が事のように心配してくださって、多くの寄付をいただきました。

助成期間中

▶活動再開の演奏会で

—— このコロナ禍で、舞台芸術関連の団体は大きな打撃を受けました。エク・プロジェクトさんも採択された4公演のうち1公演は中止に。2020年7月の札幌で活動を再開されたんですね。

西野 札幌での演奏会が自粛明け最初の活動でした。音楽界でも始動が早いほうでしたので、今、本当にやるべきなのか迷いもありましたが、お客様が想像以上に温かく迎えてくださって。ホールの方も何カ月ぶりの稼働だと喜んでくださいましたし、やはり聴いてくださる方と会場のスタッフの方がいなければ、私たちのコンサートは成り立たないのだということを強く感じましたね。

吉田 演奏活動ができないという状況自体が想像もできないことでしたけど、少人数ということもあって演奏会が開けたのは救いでした。お客様も不安が大きかったと思いますが、私たちは心をこめて演奏し、お客様の辛さや不安が少しでも和らげられればという一心で。温かい拍手からお客様の思いが伝わってきて、感激しました。

北見 本当に舞台上に立てた時は幸せな気持ちでいっぱいでした。お客様の拍手は励みになりましたし、改めて音楽の力、必要性を感じましたね。お客様の応援が、私たちの活力になっています。

大友 2020年はベートーヴェン生誕250周年で、関連の演奏会やレコーディングも終え、一つの山は越えたかなと思います。公演中止の決断は無念でしたが、助成があったのでダメージが抑えられ、助かりました。コロナ禍はまだ続きそうですが、何とか耐え忍んでいきたいです。

今後の展望

▶若い世代と繋がり刺激し合う

—— 息の長い活動を続けてこられましたけど、今後さらに目指していきたい将来像などはありますか。

大友 自分たちがレベルアップを続けることは前提として、若い世代にもクアルテットの団体が出てきています。彼らの話を聞くと「エクさんを見て自分たちもやってみようと思った」と言ってくれて。話を盛っているにしても(笑)、そうしてもらえるのは嬉しいんですが、今はそれぞれの団体が個別に活動している状態です。みんな頑張っているんで、いつか一緒に何かできたらいいなという野望はありますね。日本のクアルテットの豊か

さ、素晴らしさを伝えていけたらと思います。

西野 最近は若手のクアルテットとコラボして、オクテット(八重奏)を行ったりしていますが、逆に私たちのほうが刺激をもらえるんです。才能ある若手の方々に細胞を活性化させられて(笑)。今後も彼らと一緒に続けていきたいですし、常設のクアルテットとしては、数年がかりでショスタコーヴィチの全曲チクルスに挑戦したり、色々な角度からトライしていきたいと思います。

吉田 コロナの関係で講座や学校でのアウトリーチ活動がほとんどできなくなっているんですが、演奏と同時に大事にしていることのひとつです。これまで同様、アウトリーチにも力を入れて、クアルテットを身近に感じていただけたらと思っています。ただ、若い方たちにいかに演奏会に来ていただけるかは課題ですね。その点では北見さんが若手なので、期待しています(笑)。

北見 まだまだ試行錯誤していますが、YouTubeチャンネルで演奏だけではなく日々のリハーサル風景をあげたり、日常の姿を見ていただくことで、活動をもっと色々な方に知っていただけたらと思っています。少しずつでも、幅広い方たちに音楽に触れていただく機会を作っていきたいですね。

勝村 大友さんもおっしゃってくれましたが、日本にはなかったクアルテットの常設団体として、自分たちが後に続く人たちにビジネスモデルを示しているのかなと思います。日本中にいくつものクアルテットがあり、色々なシリーズがあって、お互いにゲスト出演するような形になっていくのが理想ですよね。そういう環境を整えられるように、助成金も活用させていただきつつ、エク・プロジェクトが先陣を切ってモデルを作っていけたらと思っています。



▲第39回東京定期演奏会(2020.11.08)



▲第16回京都定期演奏会(2020.11.13)

2 ダンスブリッジ 2020

セッションハウス企画室

助成金額 1,433 千円

活動概要

神楽坂セッションハウス（東京都新宿区）を拠点として2013年に活動開始したプログラム「ダンスブリッジ」は、創造するダンサーと想像する観客の間にイメージの橋を架け、ダンスの多様性を社会に届けることを目的としている。毎回コンセプトをダンサーたちが共有し、独自性のある作品の創出を心がけている。2020年のコンセプトを「身体性の喪失にダンスの力で歯止めを！」と掲げ、近藤良平、松本大樹、笠井瑞文、伊藤直子各氏、そしてセッションハウスの各監修公演、5企画を立案。コロナ禍により全公演をライブ配信し、観客との新たなコミュニケーション手段としてチャットによる交流を行った。2020年10月9日～12月19日の期間中、5企画・計9回公演を実施。



▲笠井瑞文監修/鈴木ユキオ・三浦宏之・笠井瑞文
「舞踏身体の3つのカラダの物語」

助成を受けて

5企画それぞれの作品の基本方針が決まった中で、コロナ禍となり、全公演をオンライン上演に変更しました。無観客ライブ配信という突然の環境の変化はダンサー、スタッフ、観客それぞれに大きな負担がありましたが、チャットでの交流などによってダンスを欲している人と繋がる貴重な体験になりました。無観客という入場料収入が見込めない状況の中で、助成を受けていることは大きな支えとなり、中止を考えずに実施できる方法を模索できました。クラウドファンディングに取り組めたのも、“助成を受けている事業”として外部から認識されているという支えがあったからです。新しい表現の発見や新しいコミュニケーションツールの構築に挑戦し、「リアルで間近」から「オンラインで間近」にダンスを創り、観る環境を持続可能にする試みを達成できました。

活動におけるこうした新たな試みや、作品の価値観を社会に発信することが、開かれた表現として公益性を持つと考えます。劇場に足を運ばない地方からも観劇できるオンライン配信の誕生、記録映像とは異なるライブ感と、多角的な視点を持つ新しい映像価値が生まれたことは、文化的公益性と考えられるでしょう。

多様性に満ちたコンテンポラリーダンスは、これからの社会に必要な指針となり得ます。若手からベテランまでが自由に作品を発表する企画を立案し、有観客、オンライン配信と、時代の中で必要な表現方法を模索しながら、コロナ後の世界にダンスに関わり、人々を勇気づける作品の創出に力を尽くします。今後もぜひ助成金を活用して、多くの人を巻き込む企画を実行し、成果を問うていきたいです。



▲スズキ拓朗監修/ CHAIROIPLIN 「踊る詩集・サーカス」

セッションハウス企画室

〒162-0805 東京都新宿区矢来町158 セッションハウス内
Tel: 03-3266-0461 e-mail: mail@session-house.net
URL: <https://session-house.net/>

3 風姿花伝プロデュース vol.7 『ミセス・クライン』

合同会社 風姿花伝プロデュース

助成金額 2,605千円

活動概要

風姿花伝プロデュースでは公演の企画・製作を活動の中心とし、客席数100弱の小劇場「シアター風姿花伝」(東京都新宿区)において、第一線で活躍するスタッフ・キャスト陣を集めて成熟したストレートプレイを創作、上演している。クオリティの高い創作を間近で観ることにより、大劇場では感じられない表情の微妙な変化、息遣い、緊迫感、匂いなどによって観客の五感を刺激し、創造力・想像力を高め、豊かな日常生活のための能力の活性化を促すことを目的とする。2020年の公演は、実在の精神分析学者メラニー・クラインをモデルにしたもので、母と娘の間に生じる普遍的な確執が描かれた作品を上演した。公演期間中にはシンポジウムも実施し、観客とともに作品理解がさらに深まることを目指し、臨床心理士や作家などを交えた議論の場を設けている。2020年12月4日～20日、全22回公演。



▲ 撮影：沖美帆



▲ 撮影：沖美帆

助成を受けて

令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策に悩まされました。公演を実施する際の徹底した感染症対策はもちろん、稽古場での感染症対策、日々の検温、PCR検査など、通常であれば気にしなくてよいことに時間や費用、マンパワーが取られることになりました。また誰か一人でも感染すると公演中止となる事態は、小空間での長期間公演を特徴とする風姿花伝プロデュースにとって大きなリスクであり、実施するか否かを何度も悩みましたが、できる限りの対策を行って上演に挑み、無事に千穂楽を迎えられました。今回、助成を受けたことにより、高校生以下や大学生に向けて安価なチケットを提供することができました。また角田光代さん(作家)、北川清一郎さん(臨床心理士)をお招きし、「人間の心理、精神を扱う識者による『ミセス・クライン』を多角的に考察するシンポジウム」を開催できたことも、助成が大きな支えとなりました。

風姿花伝プロデュースは、日本であまり知られていない秀逸な海外戯曲を多く取り上げ、上演しています。それらの戯曲に描かれている人類の普遍的な悩み、課題、人間関係を表現することで、観劇されるお客様の人生が豊かになり、生きる糧となることも、演劇の持つ公益性の一つだと考えています。今後も、小空間ならではの濃密な舞臺表現をさらに突き詰め、実験的な創作にも取り組んでいきたいと思っています。ワーク・イン・プログレスの手法を取り入れて、観客と創作過程を共有し、段階的に発表したり、同じ作品を異なるキャストで上演するなど、作品の強度をより高めて検証するような活動も取り入れていきたいです。そのためにも助成金を活用させていただき、風姿花伝プロデュースの取り組みそのものをより発展させていければと思っています。

合同会社 風姿花伝プロデュース

〒161-0032 東京都新宿区中落合 2-1-10

Tel: 03-3954-3355 e-mail: mail@fuusikaden.com

URL: <http://www.fuusikaden.com>

4 創邦21 第17回作品演奏会

創邦21

助成金額 388千円

活動概要

邦楽の様々なジャンルから創作の志を持つ者たちが集い、1997年に発足。2000年より作品演奏会を年1回程度開催し、2010年からは公開講座「創作のキモ」を年1～2回程度開催している。邦楽の未来を見据え、創作を担い未来に繋げる作家の育成・研鑽と活動の拡充を目指して、積極的に作品を制作・発表し、日本の音楽文化・芸術の発展に寄与することを目的に活動を続けている。

第17回作品演奏会では「花鳥風月 人」をテーマに掲げ、個々の要素に対応する作品を創作・上演。【花】「花の謂（いい）」、【鳥】「みち」、【風】「風に向かって」、【月】「融」、【人】「オイディプス」という5作品を初演した。公演は2020年10月23日、紀尾井小ホール（東京都千代田区）にて開催。



▲「みち」蓬萊泰三作詩 福原徹作曲 © ヒダキトモコ

助成を受けて

助成とはただ活動資金を援助していただくのではなく、当該活動や団体を評価、あるいは期待して下さっていることの証と考えています。公演の来場者やチラシを目にした人からすれば、振興会マークと助成の表記は、公演の質を担保していると思われまます。金額以上のこうした価値を感じて助成を申請しましたが、新型コロナウイルスの感染状況や国・東京都の施策により、活動（公演）が予定通り実現できるのか、また団体として公演を行う意志があるのか、そこから議論を始める必要がありました。公演実行を決定した次には、具体的な感染防止対策に苦心しました。特に舞台上において、演奏位置と感染対策、音とのバランスの調整など、出演者やスタッフの安全安心を図りつつ、よりよい演奏を提供することとの擦り合わせには苦勞しました。楽屋でも密を避けるため、出演者一人一人の動線を考慮し、ホールには楽屋以外の場所も貸していただくなど、各方面に協力いただきました。

集客面では時節柄厳しいものがありましたが、この感染流行下で公演を無事行えたことが、まずは大きな成果です。少人数で効果的にできる表現を目指したり、キープ・ディスタンスを逆手にとった演出を考えたりと、「必要は発明の母」の言葉通り、私たち一人一人の中に今後に繋がる「種」が蒔かれたように思います。文化活動を諦めず、とりわけ伝統を繋げていく営みの一つとなりました。コロナ禍により実演収入が激減した中で開催できたことは、助成あってこそと感謝しています。

今後も助成を活用させていただきながら毎年作品演奏会を開き、より良い作品を発表するとともに、伝統芸能・邦楽における創作物をもっと普及させていきたいと考えています。創作作品を広めるだけでなく、創作する（つくる）という行為そのものも、邦楽人にとって当たり前ものとなることを願い、活動を続けていきます。



▲「融」金子泰作詞 今藤美治郎作曲 © ヒダキトモコ

創邦21

URL: <https://soho21.jp/>

5 ライフ 生きることは、表現すること展

公益財団法人 熊本市美術文化振興財団

助成金額 4,012千円

活動概要

超高齢化社会を迎える現代の日本において、誰もがいずれは身体的・精神的な弱者、少数派になり得る。障害や加齢などから生まれる困難と向き合い、またあえてそこを注視することで日々創作を続ける11組の表現者—アール・ブリュット作家、菊池恵楓園入所者、現代アーティスト、ロボット研究者、そしてそれを支える人まで—を含めて紹介。現代アートに限らず他分野の作家を取り上げることで、美術愛好家だけではなく多様な市民が来館し、この社会の中で「生きていく」ことを肯定してくれる様々な表現との出会いの場になることを目指した企画。

展示は2020年5月21日～6月14日、熊本市現代美術館ギャラリーI、II（熊本県熊本市）にて開催。「アール・ブリュット」、「現代アート」等から「IT・テクノロジー」まで、「弱さ」をキーワードに様々な分野を横断した作品総点数2,789点を展示した。



▲片山真理《you're mine #001》2014 © Mari Katayama



▲「自撮りおばあちゃん」こと西本喜美子の写真

助成を受けて

本助成は先進的・挑戦的な企画や一般に知られていないものについても細かく吟味していただけるため、自主企画性の高い現代美術を扱うことの多い当財団にとって非常にありがたい存在です。オリジナリティのある企画を地方で自信をもって実現させる際に、大変心強く感じています。本活動は弱さや障害、多様性をテーマとして、東京オリンピック・パラリンピックのプレ期間である2020年4月11日オープンを設定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため開催延期となり、実質25日間の会期となりました。作家の来館も難しくなり、展示作業もオンラインで確認しながら行いました。

内容の選定にあたっては、現代美術やアール・ブリュットだけでなく、「弱いロボット」や、菊池恵楓園入所者の方の絵画、SNSで知られる「自撮りおばあちゃん」など、幅広い層に関心を持ってもらえることを心がけました。なかでも、両足を離断した自らの身体をテーマとして作品制作を行うアーティストの片山真理は、本展を象徴する作家の一人ですが、初期から最新作までを通覧する際に、最新作の出力・額装の予算不足がネックとなっていました。今回、助成の一部をそこに充てることで、首都圏以外では初めてまとまった形で片山作品を紹介することができ、身体の不自由さと向き合いながら、アーティストとして母として生きる姿を見せることで、来場した市民に強いインパクトや共感、勇気を与えることができました。本活動は、「弱さ」へのまなざしや、多様性や寛容性、他者を理解しようとする心が醸成される点に、公益性があると感じています。今後も助成金の活用を検討しながら、こうしたテーマを様々な角度から取り上げ、よりよい企画を考えていきます。

公益財団法人 熊本市美術文化振興財団

〒860-0845 熊本県熊本市中央区上通町 2-3

Tel: 096-278-7500 e-mail: gamadas@camk.or.jp（熊本市現代美術館代表）

URL: www.camk.jp

6 谷川俊太郎展

公益財団法人 熊本市美術文化振興財団

助成金額 3,314 千円

活動概要

熊本市現代美術館において、熊本で初めての詩人の大型個展となる「谷川俊太郎展」を開催。歴史資料展示や表現の補助として詩を見せるのではなく、詩の作品自体を空間の中で全体的に体験するための展示を目指した。東京オペラシティアートギャラリーでの展示をベースにしながら、空間デザイナーによるディレクションのもと、現代美術館ならではの形で詩の体験を設計した。時代の先端で活躍するアーティストによる映像やサウンドを交えて、詩人の既存の作品を新たな形で提示。今までにない鮮烈な詩の体験を鑑賞者にもたらすことで、60年にわたり人々の心を震わせ続ける谷川俊太郎の魅力の根源を探った。会期は2020年6月27日～9月6日。



▲ Photo: Shintaro Yamanaka (Qsyum!)

助成を受けて

「言葉を展示する」ことへの本格的な取り組みは、当館としては初の試みでした。通常の美術作品の展示とは考え方を必要があり、デザイナーを含む企画チームのメンバーとともに、試行錯誤しながら展示を具体化していきました。予算の問題で当初はメインの展示部分の規模縮小が検討されましたが、結果としてベストに近い形で開催することができたのは助成の力によるものです。コロナ禍の中、入場者数は見込みを下回ったものの、実際に来場された方々からは非常に高い評価をいただきました。美術館の空間でしかできない詩の体験をやることを目指した展示でしたが、「リモート」という言葉が飛び交う時代状況にあって、特にその意義は深まったように思われます。

谷川俊太郎氏の詩は時代を超えて読み継がれ、子どもから高齢者まで、幅広い年齢層の読者を惹きつけ続けています。美術館ならではの詩の鑑賞体験となる本展を通じて、多くの市民に谷川氏の作品に新たな形で触れる機会を提供できました。さらに谷川氏の詩が持つ豊かな世界観への共感を引き出すことで、地元の表現者の発想と視野を広げると共に、他者と共感し合う心を通じて相互理解を促進し、心豊かな社会を形成することにも貢献した点に公益性があると考えます。また改めて「言葉」による共感の広がり大きさ・強さが再認識され、文化を尊重する土壌が育まれる効果も生まれたのではと実感しています。

熊本市現代美術館は、「日常的に多様な文化に触れることのできる場」となることをビジョンの一つに掲げています。従来の美術館のあり方にとらわれることなく、多彩な分野に目を向けて活動を展開していきたいと考えています。また活動の形として、地元地域ともこれまで以上に積極的に連携していくつもりです。今後も魅力的な企画を実施していくため、必要な際にはぜひ助成を受けさせていただければと思います。



▲ Photo: Shintaro Yamanaka (Qsyum!)

公益財団法人 熊本市美術文化振興財団

〒860-0845 熊本県熊本市中央区上通町 2-3

Tel: 096-278-7500 e-mail: gamadas@camk.or.jp (熊本市現代美術館代表)

URL: www.camk.jp

7 第14回 田辺・弁慶映画祭

田辺・弁慶映画祭実行委員会

助成金額 1,357千円

活動概要

和歌山県田辺市で2007年に第1回を開催、2020年で第14回を迎えた本映画祭は、映画産業を担う次世代監督・映像作家の作品上映機会の創出、映画関係者の相互交流機会と連携の創出、映画の魅力発信によって地域における映画文化の振興を図り、市民・映画関係者・来訪者との交流を生み出すことで地域の活性化に貢献している。2020年はオンライン開催となり、11月13日～15日、コンペティション8作品の配信(上映後トークセッションあり)、入選監督によるトークライブ等を行った(延べ視聴回数2,644回)。弁慶グランプリは『愛のくだらない』(野本梢監督)が受賞。また、第13回受賞作品の副賞上映として、「田辺・弁慶映画祭セレクション2020」と題し、11月20日～12月10日までテアトル新宿(東京)、12月18日～24日までシネ・リーブル梅田(大阪)にて上映が行われた。



▲オンライン Live トークイベント



▲表彰式グランプリ発表

助成を受けて

田辺・弁慶映画祭のコンペティション部門では、入選・受賞監督のその後の活躍も注目され、若手映画監督の登竜門として認知されるようになりました。ゲスト監督や俳優の登壇、話題の商業映画の上映等も行い、幅広い世代の方々楽しんでいただける映画祭を開催するには、会場や上映素材の手配、ゲストや関係者の招待、広報活動等の費用が必要であり、国内映画祭等の活動について支援されている貴会の助成金を申請させていただきました。助成をいただくことで当映画祭を継続的に開催でき、コンペティション部門の作品応募数の増加(2020年は応募123作品)と、入選・受賞された若手映画監督の作品上映機会の創出につながっています。2020年は新型コロナウイルス感染症の感染状況やリスクを総合的に検討した結果、オンライン開催となりました。配信の知識がない中で様々な方法を模索し、何度もテストを行い、プロフェッショナルにも依頼して、無事、好評のうちに終えることができました。会場での上映は叶いませんでしたが、通常は遠方でお越しになれない方の鑑賞も可能となり、より多くの方々に当映画祭を認知いただけるきっかけになったと感じています。とはいえ、オンライン開催では得られない、リアル開催での一体感や臨場感等を今後の開催では体験していただきたいと思っています。

当映画祭への参加がきっかけで監督同士や関係者等との交流が生まれ、そこから新たな企画や作品が誕生し、当地域でも撮影が行われるといったように、好循環が広がっていく映画祭となるよう、今後も助成金を有効に活用させていただき、継続して開催していきたいと思っております。

田辺・弁慶映画祭実行委員会

〒646-8545 和歌山県田辺市新屋敷町1(田辺市観光振興課内)

Tel: 0739-26-9929 e-mail: info@tbff.jp

URL: <https://www.tbff.jp>

8 没後 50 年 映画監督・内田吐夢

日本映画大回顧展上映実行委員会

助成金額 977 千円

活動概要

戦前から戦後にかけて活躍した巨匠・内田吐夢監督 (1898 ~ 1970)。没後 50 年を迎える 2020 年に、その全貌を伝える監督作品を一挙上映。『宮本武蔵』五部作、『大菩薩峠』三部作、日本映画史上ベスト 10 に挙げられる名作『飢餓海峡』をはじめ、上映機会の少ない戦前の代表作『土』のように貧しい農民に光を当てた傑作、瑞々しい実験精神に溢れる諸作など、映画会社各社、国立アーカイブ作品までバラエティに富んだ力作の数々を上映した。監督はまた、戦後 7 年間もの中国抑留経験を持つ。波乱に満ちた生涯の中で優れた映画を発表し続けた巨匠の存在を、あらためて世に知らしめる機会となった。2020 年 7 月 25 日 ~ 8 月 28 日、シネ・ヌーヴォ (大阪府大阪市) にて開催。



▲映画評論家・上野昂志さん

助成を受けて

毎年夏に、ひとりの監督などに絞った「日本映画大回顧展」を開催しています。可能な限りの作品を上映する大特集で、増大する作品借料に加えて、ほとんどが 35 ミリ作品であることから映画技師へのフィルム公開に関わる技術料なども重なり、経済的に厳しい状況でした。内田吐夢監督特集では、戦前作品はほとんど失われており、戦後も上映プリントがない作品が多く、上映費用が高くなる国立映画アーカイブ作品を 8 本も借りて上映することは、助成がなければ叶いませんでした。さらにコロナ禍で「密」を避けるため客席を半減しなければならず、上映料の高さに見合う入場料が見込めない中で、助成には大きく助けられました。また今回は、映画史研究家の春日太一さん、映画評論家の上野昂志さん、脚本家の梶山弘子さんを東京からお招きし、専門家の立場から内田吐夢監督について語っていただけたことも貴重な機会となりました。より作品世界を深めることができ、映画ファンに濃密な鑑賞の場を提供できたと思います。ただ、客席半減ゆえに満席となる回も多く、お客様を度々お断りしなければならなかったことは大変申し訳なく、心苦しい思いもしました。



▲脚本家・梶山弘子さん

当実行委員会では、貴重な日本映画を紹介することが多く、上映機会の少ない古い日本映画の数々、また内外の多様な新作映画の上映など、文化の多様性について発信し続けている活動について評価いただき、芸術文化振興基金より継続して支援をいただいています。日本にはまだまだリスペクトされるべき映画人が数多く存在しており、監督はもとより、様々な切り口からアプローチしていきたいです。そして今後も助成金をぜひ活用し、より内容の濃い特集上映を続けたいと思っています。

日本映画大回顧展上映実行委員会

〒550-0027 大阪府大阪市西区九条 1-2-24 シネ・ヌーヴォ内

Tel: 06-6582-1416 e-mail: staff@cinenuveau.com

URL: <http://www.cinenuveau.com/>

9 アーサー・ビナードが語る紙芝居 「ちっちゃい こえ」&ヒロシマのこころコンサート

公益財団法人 広島市文化財団（広島市東区民文化センター）

助成金額 509千円

活動概要

広島市文化財団（広島市東区民文化センター）では、広島市が全市的に取り組んでいる平和活動について、公共施設として文化芸術を通じて推進。2021年は、被爆80周年に向けて広島に心を寄せるアーティストらによる「ヒロシマのこころ」をテーマにした絵本朗読とコンサートを開催した。被爆70周年の「ヒロシマ音楽プロジェクト70」で創られた、広島出身の作曲家作品「ひろしまへ」や、広島在住の詩人アーサー・ビナード氏が作った絵本「ちっちゃい こえ」、「さがしています」等に生演奏の曲を付け、詩人自らが朗読。音楽・文芸を多角的に取り込むことで社会的関心を高め、平和を問う新たな芸術創作活動を促進した。2021年3月27日、広島市東区民文化センター・ホール（広島県広島市）にて上演。



▲紙芝居「ちっちゃい こえ」（童心社）

助成を受けて

芸術文化振興基金の助成は、申請の時点で活動内容を具体的に定める必要があり、それが制作をスムーズに進め、一般的に高い評価を得ることに繋がると考えています。財源の確保とともに、事業内容を充実させるためにも助成を受けようと思いましたが、当初は被爆75周年の2020年7月に実施を予定していましたが、コロナ禍の影響で12月開催に延期となり、さらに広島市の感染拡大防止集中対策を受け、二度の延期でこの年度末の3月に開催となりました。延期に伴い出演者の一部が変更となったことは残念でしたが、詩人アーサー・ビナードさんと作曲家との打ち合わせを何度も重ね、イメージを共有して着実に進めていきました。演奏した曲が既存のクラシック曲と違って委嘱した曲のため、作曲家のプログラムノートを掲載して作曲意図等が分かるようにしたり、また詩をもとに作曲した楽曲は、詩をプログラムに掲載して曲の内容がイメージできるようにする等、観客に寄り添った記録に残るプログラムを作成できたと思っています。

また今回、広島出身の著名な作曲家二人（中村暢之氏、高嶋圭子氏）と、広島在住の若手作曲家に楽曲を委嘱できたことは、助成の力によるものと実感しています。自作の詩をビナードさん自ら朗読し、それに合わせて音楽演奏や歌唱をする等、文学と音楽とのコラボレーションを実施。絵本の原画を背景に演奏、歌唱を楽しむことで、音楽への理解度を高めることができたこと、そして県外からも注目され、遠くは関東、四国、九州から来客があり、広島ゆかりの作曲家や演奏家を広く紹介する機会となったこと等、公益性のあるハイレベルなコンサートが実現できました。今後も、内容の充実と有意義な成果に繋がる助成を活用させていただき、広島に縁が深いアーティストによるコンサートや演劇等を実施していきたいと考えています。



▲絵本「ドームがたり」（玉川大学出版社）

公益財団法人 広島市文化財団（広島市東区民文化センター）

〒732-0055 広島県広島市東区東蟹屋町 10-31

Tel: 082-264-5551 e-mail: higashi-cs@cf.city.hiroshima.jp

URL: <http://www.cf.city.hiroshima.jp/higashi-cs/>

10 北前船の華 —北海道に渡った九谷焼 (小樽・後志編)

小樽市 (市立小樽美術館)

助成金額 485千円

活動概要

江戸から明治にかけて、商売をしながら日本海を往来した北前船。その船主には九谷焼発祥の地・石川県加賀市の出身者が多くいた。北前船の寄港地だった小樽を含む後志(しりべし)地方は、明治期に北前船主たちが事業を起し居住したことから、人の移動とともに九谷焼も北海道にもたらされた。市立小樽美術館(北海道小樽市)にて2020年10月24日～12月27日まで開催された本展では、石川県九谷焼美術館の調査をベースに、北海道の北前船ゆかりの地に受け継がれた九谷焼の名品144点を展示。小中学生等の無料入館者を含む1,285人が観覧したほか、当初より規模は縮小したものの、講演会、創作コンテンポラリーダンスの映像上映、イベントなど関連企画も行った。



▲展示風景(吉田屋窯の九谷焼と小樽商人の印半纏)

助成を受けて

北海道全域にわたる九谷焼の調査結果は、石川県九谷焼美術館(本展企画協力)がすでに報告書を発行していましたが、それとは別に本展に対する地域の期待がありました。小樽を中心とした北海道後志地域6市町村に現存する作品・資料を掲載したオリジナリティのあるカタログを発行したかったこと、また輸送・展示撤収作業は安全性と技術力を備えた専門業者でなければならず、経費の圧縮が困難なことから、助成を申請しました。広報媒体に掲載する本助成のロゴは展示会の質そのものの裏付けにもなります。本展の実施にあたってはコロナ禍の影響が大きく、真冬の会期への変更で作品輸送に苦労したこと、セレモニー類の取り止めでPR機会を失ったこと、都道府県を跨ぐ人の移動が制限され、積極的な集客の呼びかけや石川県から来賓・講師を招くことができなかったことなどが悔やまれました。とはいえ、展示では九谷焼美術館の調査結果を踏まえて個々の作品の制作年代と窯が特定されたことで美術品としての価値が高められ、本展の開催により、貴重な美術品である九谷焼の喪失を食い止める効果がありました。地域の郷土史を背景にした美術展、美術館での北前船展示の一環として、新たなスタイルを示すことができたと考えています。そして小樽市民が、北前船によりもたらされた華麗な九谷焼や民具等の価値を理解し、地域に対する愛着と誇りを持つことで、文化遺産が存在する自分たちの生活空間を大切に守っていこうという意識が形成されました。また北海道後志管内の美術館と博物館の学芸員同士の協働、ネットワークが構築され、連帯感が生まれました。

現在も小樽には石川県加賀市をルーツとする企業や店舗が多いことから、北前船や九谷焼を生かした将来的な観光資源を創出し、情報発信に努めたいと考えています。今後も助成金を活用させていただきながら、地域に根ざし、地域の誇りとなるような企画を全国に発信していきます。

小樽市(市立小樽美術館)

〒047-0031 北海道小樽市色内1-9-5 市立小樽美術館

Tel: 0134-34-0035 e-mail: bungaku-kan@city.otaru.lg.jp

URL: <https://www.city.otaru.lg.jp/simin/sisetu/artmuseum/>



▲本展監修者(高野宏康氏)講演会風景

北海道全域にわたる九谷焼の調査結果は、石川県九谷焼美術館(本展企画協力)がすでに報告書を発行していましたが、それとは別に本展に対する地域の期待がありました。小樽を中心とした北海道後志地域6市町村に現存する作品・資料を掲載したオリジナリティのあるカタログを発行したかったこと、また輸送・展示撤収作業は安全性と技術力を備えた専門業者でなければならず、経費の圧縮が困難なことから、助成を申請しました。広報媒体に掲載する本助成のロゴは展示会の質そのものの裏付けにもなります。本展の実施にあたってはコロナ禍の影響が大きく、真冬の会期への変更で作品輸送に苦労したこと、セレモニー類の取り止めでPR機会を失ったこと、都道府県を跨ぐ人の移動が制限され、積極的な集客の呼びかけや石川県から来賓・講師を招くことができなかったことなどが悔やまれました。とはいえ、展示では九谷焼美術館の調査結果を踏まえて個々の作品の制作年代と窯が特定されたことで美術品としての価値が高められ、本展の開催により、貴重な美術品である九谷焼の喪失を食い止める効果がありました。地域の郷土史を背景にした美術展、美術館での北前船展示の一環として、新たなスタイルを示すことができたと考えています。そして小樽市民が、北前船によりもたらされた華麗な九谷焼や民具等の価値を理解し、地域に対する愛着と誇りを持つことで、文化遺産が存在する自分たちの生活空間を大切に守っていこうという意識が形成されました。また北海道後志管内の美術館と博物館の学芸員同士の協働、ネットワークが構築され、連帯感が生まれました。

現在も小樽には石川県加賀市をルーツとする企業や店舗が多いことから、北前船や九谷焼を生かした将来的な観光資源を創出し、情報発信に努めたいと考えています。今後も助成金を活用させていただきながら、地域に根ざし、地域の誇りとなるような企画を全国に発信していきます。

小樽市(市立小樽美術館)

〒047-0031 北海道小樽市色内1-9-5 市立小樽美術館

Tel: 0134-34-0035 e-mail: bungaku-kan@city.otaru.lg.jp

URL: <https://www.city.otaru.lg.jp/simin/sisetu/artmuseum/>

11 桜川市真壁伝統的建造物群保存地区 災害復旧事業の記録

桜川市

助成金額 357千円

活動概要

2010年に重要伝統的建造物群保存地区として全国で87番目に国から選定を受けた桜川市真壁伝統的建造物群保存地区（茨城県桜川市）は、翌年3月11日に発生した東日本大震災において、保存地区内にある伝統的建造物と、その周辺にある登録有形文化財（建造物）が被災。その後10年にわたって文化庁・国土交通省の支援を受け進めて来た災害復旧事業が完了を迎えることを機に、地震時の対応や災害復旧事業の修理記録の資料を作成・公開した。「桜川市真壁伝統的建造物群保存地区 重要選定10周年記念誌 災害と共に歩んだ10年」と題した冊子とその概要版の2パターンを作成。全国123の重伝建地区ほか関係機関や住民に配布した。



▲「復興した真壁の町並み」 桜川市

助成を受けて

桜川市真壁地区は、戦国時代の真壁城（国指定史跡）を起源とし、江戸時代には笠間藩の陣屋が置かれ、周辺地域の物産が集散する在郷町として発展してきました。400年以上前の町割りがよく残り、真壁造りの木造店舗のほか、見世蔵、塗屋、木造住宅、土蔵、石蔵、洋風建築といったバラエティに富んだ良質な建物が残っています。しかし、重要伝統的建造物群保存地区に選定された翌年、東日本大震災で、伝統的建造物の9割以上に被害があり、全国の伝統的建造物群保存地区の中でも最も大きな被害を受けた地区となりました。

10年にわたる災害復旧事業の中では、伝統的建造物を文化財として未来に伝えるため、所有者の意向があれば復元修理工事を実施するなど、災害復旧とともに景観

の向上を図る取り組みも行ってきました。今回助成を受けて、災害復旧事業を記録した重伝建選定10周年記念誌200部、さらにその概要版1,000部を作成し、関係機関や住民に配布することができました。

全国にある伝統的建造物群保存地区並びに歴史的建造物の保存を推進している地域において、今後も各地で発生するであろう災害に際し、非常時の対応や、復旧事業を進める上での一助になったと考えています。

地域のみならず国にとっても価値のある歴史的町並みが保存整備されることは、住民や来訪者に対してその土地の魅力をより発信できることにつながります。これからも歴史的町並み保存事業を推進するための参考資料として活用し、また10年を目安に修理記録集を作成するなど機会があれば助成金を活用したいと思います。



▲「歴史的建造物の災害復旧の記録」 桜川市

桜川市

〒309-1293 茨城県桜川市羽田1023番地 桜川市建設部都市整備課

Tel: 0296-58-5111 e-mail: toshiseisaku_g@city.sakuragawa.lg.jp

URL: <https://www.city.sakuragawa.lg.jp/sp/>

12 小津神社長刀踊りの記録作成

三宅町小津神社祭礼委員会

助成金額 446千円

活動概要

小津神社（滋賀県守山市）の長刀踊りは、水害により琵琶湖に流された社殿から御神霊を迎えた際に村人たちが喜び、踊ったことが始まりとされる伝統神事。8つの集落が毎年持ち回りで執り行うことが特徴で、2020年に当番となった三宅町の祭礼委員会では、本祭礼の記録作成及び祭礼に必要な不可欠な道具の修理・新調を計画した。2020年5月5日に奉納予定だった祭礼の記録を後世に残す計画だったが、新型コロナウイルス感染症の影響による緊急事態宣言発出のため祭礼は中止。宣言解除後の同年7月25日、三宅町自治会館他にて、少人数による祭礼の所作や音頭、踊り等、記録保存動画を撮影した。



▲映像撮影の風景

助成を受けて

小津神社で行われる長刀踊りは、各集落で8年に1度、踊り当番が回ってきます。衣装や楽器の構成等が集落ごとに異なっており、前回の担当者が新しい担当者に口頭で伝える継承方法をとっていましたが、確実に後世に祭礼の所作や踊りを伝える方法としてビデオ撮影による記録保存の実施を決定し、本助成金を申請しました。当初、撮影は祭礼当日を想定していましたが、緊急事態宣言発出により、やむなく祭礼を中止しました。当番は8年に1度しか回ってこないため、このままでは継承に大きな問題が出ると危惧し、最低限の人員で各担当による部門ごとの所作や踊りの記録映像撮影を行いました。本来であれば祭礼を記録したかったところですが、結果として詳細な記録映像を後世に残せたことは大きな成果だと考えています。また、昨今の全国的課題として、祭礼道具の作り手の減少に伴い道具作成費が高騰していますが、本助成によって費用面に安心が生まれ、無事に道具を作成することができました。丁寧に手入れし、未永く使用・継承していこうと考えています。



▲長刀踊りの稽古風景

住民の都市部流出が起きている地方にとって、祭礼を行い、その後継者を育成し継承することは、若者の地域愛を育み、活気あるコミュニティを維持するうえで有効な手段です。本事業の記録映像は、地元住民にとって祭礼への理解を深める機会となりました。また、後継者を育成するためだけではなく、市町村等と協同して広報することで地域以外の多くの方の目に触れ、祭礼に興味を持っていただくことで地域の活性化にもつながります。誰もが等しく祭礼に触れられるという公益性を生み出すことができました。

今後も機会があれば助成金を利用させていただきながら、継承活動を継続し、祭礼の保存活用に努めてまいります。また、次回の踊り当番の際には、記録映像を参考にして、より完成された踊りを披露することで地域のさらなる活性化につなげていきたいと思っています。

三宅町小津神社祭礼委員会

〒524-8585 滋賀県守山市吉身 2-5-22（守山市教育委員会事務局文化財保護課）

Tel: 077-582-1156 e-mail: bunkazai@city.moriyama.lg.jp

13 船橋フィルハーモニー管弦楽団 創立 40 周年記念 特別演奏会

船橋フィルハーモニー管弦楽団

助成金額 248 千円

活動概要

千葉県船橋市を拠点とする船橋フィルハーモニー管弦楽団は、当該地域における文化振興を理念として年 2 回の定期演奏会を始め、船橋市主催行事への積極参加、船橋を収録地とする映画への無償協力、幼稚園などの施設への訪問演奏など、幅広い活動を行っている。2020 年は創立 40 周年に当たり、春と秋に実施する 2 回の定期演奏会を「記念演奏会」と位置づけ、「過去（春）×未来（秋）」のコンセプトのもと、対照的なプログラムで構成した演奏会を企画。本活動はその未来（秋）に当たり、未来を担う若手指揮者や若手プロソリストとともに作り上げる演奏会となった。入場料無料、指揮者・演奏者によるトーク開催、SNS の活用により幅広い観客層の拡充を促した。2020 年 11 月 23 日、船橋市民文化ホール（千葉県船橋市）にて開催。



▲左右の反響板を使用せず、オーケストラピットを上げて演奏者のソーシャルディスタンスを図りました。



▲オーケストラ演奏を観客だけではなく、演奏者も久し振りに楽しむことができました。

助成を受けて

昨年は新型コロナウイルス感染症の影響で練習会場が使用できず、集まって練習することもできなくなり、活動を休止せざるを得ないメンバーもいました。そんな中でどのように練習を続け、演奏会を開催するかを模索しながらの活動は、かつてない苦勞でした。それでも今回、助成を受けたことで、将来有望な若手ソリストとの共演が実現し、記念演奏会にふさわしい充実した内容の演奏会にできたことを嬉しく思います。入場無料としたことや、指揮者や演奏者によるトーク等を盛り込んだことで、誰でも気軽に楽しめる、親しみやすい演奏会になったと自負しています。

新たに取り組んだ SNS（主に Instagram 及び Twitter）による情報発信では、演奏会に向けた活動、特に新型コロナ拡大防止策を講じながら手探りで活動を再開する様子などを発信することにより、当団に関心を寄せる新たな観客層の拡充に繋がりました。また、当団が活動拠点とする地域（千葉県船橋市）は 2020 年 9 月末までの約 7 ヶ月間、新型コロナの影響により、公共施設での管楽器の活動ができなかったため、当団の演奏会はホールでの 9 ヶ月ぶりのオーケストラによる演奏会となりました。このことはコロナ禍で活動を休止せざるを得ない音楽団体に希望の光を与えると同時に、周辺地域に音楽を通じた明るい話題を提供することができたと感じています。今後も、SNS を活用して当団の活動をさらに発信することで幅広い活動に発展させたく、節目の年にはまた新たなチャレンジを試みたいと思っています。周年行事などの特別な演奏会で、再度助成金を活用させていただければと願っています。

船橋フィルハーモニー管弦楽団

Web サイト (URL) : <https://www.funaphil.jp>

Instagram (URL) : https://www.instagram.com/funaphil_i

Twitter (URL) : https://twitter.com/funaphil_t

14 染織祭衣装復元活動

公益社団法人 京都染織文化協会

助成金額 2,409千円

活動概要

公益社団法人京都染織文化協会は、昭和初期、京都四大祭の一つと謳われた「染織祭」にて制作された復元女性時代衣装（143領）を所蔵・管理し、全国の美術館等に貸し出して日本の染織文化の啓発に寄与しているが、制作から約90年が経ち、劣化が進み展示に耐えられない衣装が増えている。そこで、「高度な技術が使われ、特に劣化が著しいもの」、「技術の衰退が著しく、近い将来復元制作できない技術が使われているもの」について、現代の職人による復元活動を継続して行っている。令和2年度に対象としたのは、桃山時代の特徴的な染織技術を多用し、様々な文様を刺繍や箔で表現した豪華絢爛な桃山時代4号「紅綸子地雲取鳶亀甲笹松七宝文様打掛」。京鹿の子絞振興協同組合の復元技術監修により、2020年5月より2021年3月まで約11か月をかけて、生地選定、下絵、染め分け（糸入れ）、型製作、金箔、刺繍の各作業工程を経て完成した。



▲職人打合せ（旧衣装の確認・作業検討）



▲箔箔作業

助成を受けて

昭和8年から昭和12年まで「染織祭」の中で行われていた「復元女性時代行列」の143領の衣装は、古墳時代から江戸時代後期までの衣装を、実際に当時使われていた染織技術を復元して制作されたものです。染織技術の発展と技術継承の上で貴重な資料であり、豪華絢爛で芸術性にも優れ、美術館等の展示に活用されていますが、近年は経年劣化が進み展示に耐えられない衣装も増えています。そこで、近い将来復元制作ができなくなる危惧のあるものについて、新衣装を復元制作して引き続き美術館等への貸し出しに活用し、旧衣装は永久保管して今後の染織研究に役立てるようにしたいと考えていました。しかし、復元制作には多額の費用がかかり、資金を数年間積立てする等長期計画が必要です。一方、職人の高齢化や後継者不在により、長期計画では間に合わないという危機感がありました。そこで当助成を受けることで、早急に復元制作に着手しようと考えました。昔と今とは、きものを作る現場も変化しており、「旧衣装をどこまで忠実に復元するか」に最も苦労しましたが、職人の努力と技術研鑽により、旧衣装を忠実に再現した新衣装を制作することができました。また、制作工程の各作業を映像・音声により記録し、作業内容の詳細を当協会のHPに公開しました。

日本の伝統的な生活が薄れつつある昨今、日本の衣服（きもの）には、日本人が歩んできた歴史や研鑽された技術が背景にあり、日本人のアイデンティティに繋がるものだと考えています。コロナ禍の影響による仕事減少が拍車をかけ、職人の廃業も増加するなど、ものづくりの現場は急速に衰退しています。完成した新衣装の展示や、制作工程の動画コンテンツを通じて、一般の人々に対し技術継承の重要性やものづくりの現場が抱える問題を知っていただき、日本の染織文化・染織技術の発展と継承に役立てたいと考えています。当協会では、今後も染織技術に携わる職人を支援し、技術の継承・研鑽が引き続き行われるような取組みに発展させるべく、新たな復元制作事業にも取り組んでいきたいと思っています。

公益社団法人 京都染織文化協会

〒600-8009 京都府京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78

Tel: 075-353-1010 e-mail: bunka@fashion-kyoto.or.jp

URL: <https://www.fashion-kyoto.or.jp/orikeyo/>

15 日本音楽集団 第230回～第232回定期演奏会

特定非営利活動法人 日本音楽集団

助成金額 3,246千円

活動概要

1964年、日本の伝統楽器による現代の日本音楽を研究、創造、発表し、伝統音楽の発展継承を図ることを目的として、流派を超えた演奏家と作曲家が集い団体を設立。1999年に特定非営利活動法人認可を受け現在に至る。年3～5回の定期演奏会のほか、全国各地の鑑賞団体や文化施設、小中高校での音楽鑑賞会、CD・放送・映画・演劇の音楽担当等の音楽活動を行う。近年は人材育成事業として講習会を開催。海外音楽祭にも多数参加している。2020年度は、第230回定期演奏会（2020年6月10日）は公演中止となったが、第231回『子どもといっしょにクラシック 和楽器で「音楽と絵本」コンサート』は同年9月12日に第一生命ホール（東京都中央区）にて2回公演を行い、第232回『現代に生きる私たちの音楽』は2021年2月15日に豊洲シビックセンターホール（東京都江東区）にて1回公演を行った。



▲ ASPL II



▲ une place sur la terre

助成を受けて

新型コロナウイルス感染拡大を受けて第230回は公演中止となりました。本格的キッズ・ファミリー向け公演を目指した第231回では、客席数を50%以下に制限し、会場のお客様に歌っていただく演出を中止せざるを得ませんでした。第232回は緊急事態宣言下にて、観客の有無、配信公演等、公演の形態を直前まで協議したためチケットの販売促進が進まなかった等、様々な事態に見舞われました。その一方で、助成を受けたことにより、外部の作曲家への新作委嘱、客演の招聘や絵本など他ジャンルとのコラボレーション、また映像制作等が可能となり、演奏技術の向上、レパートリーの拡大、固定ファンの増加等の成果があり、さらにはマルチメディア戦略にも繋げることができました。

私たちは「日本伝統楽器のオーケストラ」としてこれまでにない日本音楽の創出を中心に、我が国の音楽文化の新たな礎を築く活動を続けてきました。その中で全国各地に同様の楽器編成によるアマチュア楽団も多数現れ、またそうした団体が日本音楽集団によって創出された多くの新作をレパートリーとし、多数の邦楽愛好家を生んでいます。定期公演開催から誕生した作品は、学校公演、講習会等でも活用されており、年間1万人前後の児童・生徒が日本の伝統楽器に接する機会を得る等、非常に幅の広い公益性を生んでいます。これからも対象年齢層を想定した公演に加え、比較的集客に向けたポピュラーな演目を中心とした内容の作品にも力を入れ、新たな芸術性の追求にも取り組んでいきます。そして次世代への継承のためのエンターテインメント性も含めた子供と子育て世代向けの内容等、できるだけ多くのニーズに対応しながら、さらに活動を多角的に行い、我が国の音楽文化・伝統文化の発展にも寄与できるよう努めていきたいと思っております。

特定非営利活動法人 日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚 3-17-1 滝沢ビル B1F

Tel: 03-3378-4741 e-mail: office@promusica.or.jp

URL: <http://promusica.or.jp/>

16 石井智子スペイン舞踊団公演『みだれ髪』

有限会社 グランビア

助成金額 7,625 千円

活動概要

文化庁芸術祭大賞の受賞歴を持ち、国内外で活躍するスペイン舞踊のトップダンサー、石井智子が2007年に創立した石井智子スペイン舞踊団は、スペイン舞踊を通して感性豊かな人間力、想像力を高め、豊かな人生を送れるよう、夢・幸せ・生きる活力を社会に与えることをミッションとして活動している。毎年意欲的に舞踊公演を開催し、今年是与謝野晶子の「みだれ髪」をテーマに実施。石井を中心とした日本人女性アーティストの情感豊かな踊りと男性ギタリスト、パーカッショニストの力強い演奏によって、日本文学を代表する与謝野晶子の世界を躍動感あふれるフラメンコ舞踊・音楽で表現、芸術性の高い舞台を創造した。2021年2月19日・20日、日本橋公会堂（東京都中央区）にて全3回公演。



▲ Hiroyuki Kawashima

助成を受けて

石井智子スペイン舞踊団は日本フラメンコ界を牽引するカンパニーとしてさらなる成長を目指し、スペイン舞踊の本場でも研鑽・経験・実績を積み、より質の高い舞台公演を創作して観客に提供するよう努めています。未曾有のコロナ禍での公演開催を一時は諦めようとも思いましたが、「こんな時代だからこそ、お客様の心を豊かにできる舞台を」と覚悟を決めました。多くの劇場公演が中止や延期になる中、開催につなげることができたのは、稽古費、舞台美術費などにおいて助成金による保障があったからこそだと思っています。

緊急事態宣言下での開催でしたが、客席使用率50%とした全3公演が、ほぼ満席となりました。「自らの信念を貫き、力強く生きた与謝野晶子の世界」を表現した作品は、「涙が止まらなかった」「感動で心の奥底が震えた」「自分の人生を考える機会となった」「劇場空間に身を置く幸せを感じた」などの感想をいただき、多くの観客の心を動かし、感動を与えることができたことは大きな喜びでした。フラメンコの舞台はどうしてもスペインを題材にしたものが多くなります。広く一般の人々に興味を持っていただくためには、日本人が知っているテーマを扱う必要があります。今回、「みだれ髪」の世界をフラメンコでどう表現するのかと興味を持たれた方も多く、小中学生から大学生、中年層から高齢の方まで、多くの方にご来場いただきました。地域の文化芸術活性化のために、地域住民、子供たち、また舞踊・演劇の世界を目指す大学生・劇団研究生などを招待し、舞台芸術を鑑賞する機会を提供し、文化芸術が周辺地域へ波及するよう心がけています。今後も、カンパニーの技術向上に力を入れ、芸術性の高い舞台活動を行っていくために、助成金を活用させていただきたいと思っています。



▲ Hiroyuki Kawashima

有限会社 グランビア

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-8-4-B1

Tel: 03-6280-3147 e-mail: info@tomokoshihii.com

URL: <http://www.tomokoishii.com>

17 現代韓国演劇 2 作品上演 『獣の時間』『少年 B が住む家』

有限会社 名取事務所

助成金額 11,633 千円

活動概要

1996 年に活動を開始した名取事務所は、演劇プロデュース、それに伴うワークショップなどを手がける。近年では自治体、企業との共同制作、海外公演等の活動を展開し、演劇分野においては海外戯曲の翻訳上演で高い評価を獲得している。今回は韓国人劇作家による 2 作品上演を企画。創作初演となる『獣の時間』（キム・ミンジョン作、シライケイタ演出、石川樹里翻訳）と『少年 B が住む家』（イ・ボラム作、眞鍋卓嗣演出、沈池娟翻訳）という社会問題をベースとした両作品を通して、韓国演劇の最先端を観客に提示し、好評を博した。『獣の時間』2020 年 10 月 23 日～11 月 1 日、全 8 回公演、『少年 B が住む家』2020 年 10 月 25 日～11 月 2 日、全 9 回公演、共に下北沢・小劇場 B1（東京都世田谷区）にて上演。



▲『獣の時間』左より山口眞司、清水直子、伊藤安那、西山聖了
(撮影：坂内太)



▲『少年 B が住む家』左より豎山隼太、森川由樹、鬼頭典子、田中茂弘 (撮影：坂内太)

助成を受けて

入場料と広告料等の収入だけでは質の高いキャストを揃えて公演することが難しく、稽古場の確保が困難な状況もあり、申請しました。特に今回は 2 本立て公演のため稽古場を 2 箇所確保しなければならず、人員の配置を含めて稽古場にかかる費用負担が大きくなりました。助成を受けたことで、そのような経費にかかる財源を確保するとともに、質の高いキャスト陣を揃えることができ、作品の完成度が上がって高い評価につながったと思います。今回上演した両作品に共通するのは、社会問題をベースとした斬新な題材を扱う女性劇作家作品で、「少年の闇・受難」を描いていることです。アンケートや新聞評では「再生と希望が救いになる」という評価も見受けられました。結果として『少年 B が住む家』では、文化庁芸術祭優秀賞、演出家の眞鍋卓嗣は紀伊國屋演劇賞個人賞、読売演劇大賞優秀演出家賞、翻訳の沈池娟は小田島雄志・翻訳戯曲賞、音響の井出比呂之は日本舞台音響家協会の園田・加納賞を受賞しました。また名取事務所に書き下ろした『獣の時間』は、韓国の劇団によって 2021 年 8 月にソウルでも上演され、助成を受けたことで達成した波及効果と言えます。

また本活動ではハンディキャップ対応に力を入れ、手話付き公演を実施し、ハンディキャップのある方、シニア、学生を対象にチケットを廉価で提供することができました。特に学生 1,500 円、高校生以下 500 円と、他団体に比べて非常に来場しやすい料金設定にすることができ、公益性のある活動となったことを実感しています。今後も時代を捉えた、これまでに観たことのないような芝居を創ることを目指して、助成金を活用させていただきたいと思っています。

有限会社 名取事務所

〒154-0015 東京都世田谷区桜新町 1-15-1 チェリーハイム 201

Tel: 03-3428-8355 e-mail: thntr123@ybb.ne.jp

URL: <http://www.nato.jp/>

18 女流義太夫演奏会

一般社団法人 義太夫協会

助成金額 1,045 千円

活動概要

江戸時代から受け継がれる義太夫節を伝承・発展させることを目的とする同協会は、太夫・三味線・人形で構成された江戸因講（えどちなみこう）をルーツとし、東京因講、日本義太夫協会を経て、1957年、現組織に改組。1970年に社団法人化、2012年に一般社団法人となる。理事で重要無形文化財保持者（人間国宝）の竹本駒之助をはじめ、重要無形文化財「義太夫節」保持者が多く所属。良質な素浄瑠璃を継続して提供し、義太夫節を絶やさず普及していくため活動を続けている。「女流義太夫演奏会」は、協会の基幹事業として年10回開催している素浄瑠璃の演奏会。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で一部公演が中止となり、お江戸日本橋亭（東京都中央区）にて7回、紀尾井小ホール（東京都千代田区）にて1回、2箇所・計8公演を実施した（予定していた4公演は中止、追加公演を開催）。



▲写真：福田知弘

助成を受けて

2020年度は8月までの公演が全て中止となりました。9月公演より再開しましたが、お客様から「待ってましたよ」「再開おめでとう」等、多くの声をかけていただきました。時代の変遷と共に演奏会の諸経費と収入のバランスが難しくなり、よりよい舞台をお届けするために助成を申請していますが、これまで助成をいただくことで活動を継続できてよかったと心より思いました。舞台の機会が奪われると出演者の芸に支障が出る恐れもありましたが、年度後半には追加公演を実施し、結果的には10回開催予定のうち8回の公演を開催できました。



▲写真：中山鉄也

感染症対策には常に苦心しましたが、演奏会を重ねる中で常に新しい情報を得ながら、会場、楽屋、稽古時における対応を徹底し、無事に開催できたことに安堵しています。技芸員の稽古の機会が減少し、若手にとっては厳しい年となりましたが、皆で励まし合いながら今までと遜色のない水準の舞台をお届けできました。

義太夫節は伝統芸能の中で重要な位置にあると考えています。歌舞伎や文楽等で役者さんや人形と一体となって表現する義太夫節と共に、素浄瑠璃の分野を絶やさないことは、日本の古典芸能を守り抜くことでもあります。日本で唯一の素浄瑠璃の定期演奏会である「女流義太夫演奏会」の歴史は古く、この歩みを途絶えさせることなく、さらなる発展のために、後継者の育成に力を注ぎ、義太夫節の魅力をより広めていきたいと思っています。助成金については、2020年度から出演料だけでなく会場費等にも助成対象が拡大されたことが大変ありがたく、今後できるだけ助成金を活用させていただきながら、一人でも多くのお客様に演奏会に足を運んでいただけるよう、活動を続けてまいります。

一般社団法人 義太夫協会

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-1-6 日本橋永谷ビル210号

Tel: 03-6265-1880 e-mail: am-giday@gidayu.or.jp

URL: <https://www.gidayu.or.jp>

19 浪曲定席木馬亭

一般社団法人 日本浪曲協会

助成金額 1,623 千円

活動概要

1940年に設立、2015年より一般社団法人に移行した同協会は、浪曲芸の錬磨向上を図ると共に、浪曲界の社会的地位の向上を図ることを目的として、浪曲芸の上演、芸の向上と新人の養成教育、機関誌の発行などの事業を行っている。関東浪曲の拠点として開催している「浪曲定席木馬亭」は、国内外の観光客、近隣の買い物客などが行き交う浅草において日本の語り芸である浪曲を安定して供給し、幅広い世代の耳目に触れ、次世代への文化継承を願って継続されている。2020年4月より2021年3月まで、毎月1日～7日（1日1回）、計72回開催（2020年5月は公演中止）。会場は木馬亭（東京都台東区）。



▲浪曲定席木馬亭

助成を受けて

コロナ禍の下、ルール遵守のうえ85%以上の公演を実施できました。これにより関東の浪曲の拠点として、当活動が機能し得たと考えます。来場者数は減少したものの、内容に関しては前年と遜色なく、企画によってはさらにお客様に喜んでいただける番組での実施ができました。木馬亭での定席が当会のメインとなっている現状において、助成金をいただくことで、安定した活動継続が可能となります。また、本助成を受けられることが、法人としての信頼の証ともなります。ただし、数名の会員が助成金関連の書類作成事務を担当しており、パソコンのスキルを持つ人員が限られているため、若い人たちの協力なしでは何かと立ち行きません。本年度は、事務処理が想像以上に多く、苦しみました。それでもこのように活動を継続することにより、お客様に元気と安心を、また浪曲に込められた日本人の「魂の叫び」を訴える機会があることは、大きな社会的意義があると信じています。木馬亭での浪曲寄席は50周年を迎え、半世紀にわたり浪曲を愛するお客様を迎えてきたことを考えると、木馬亭で定席を開催する意味はとても大きいものがあると感じます。

今後はYouTube等、動画配信にも力を入れていく必要があると思いますが、同時に、あくまでもライブ＝寄席としての木馬亭を活性化するための努力を続けていきたいです。「浪曲といえば木馬亭」とより多くの方に認知していただくべく、これまでと同様の活動を今後も絶やさず続けていきます。古くからのお客様と新しいお客様、両方に楽しんでいただける場所を提供していくために、さらに企画の工夫やウェブ、SNSでのPR活動を広く行ってまいります。そのためにも助成金は引き続き活用させていただきたいです。



▲浪曲定席木馬亭

一般社団法人 日本浪曲協会

〒111-0034 東京都台東区雷門1-10-4

Tel: 03-3844-1611 e-mail: www@rokyoku.or.jp

URL: <https://rokyoku.or.jp>

20 横浜ダンスコレクション 2021

公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団

助成金額 27,076 千円

活動概要

1996年から毎年開催している国際ダンスフェスティバル「横浜ダンスコレクション」は、日本、アジア、世界の振付の現在地を捉えるコンペティションや海外のダンスフェスティバルとの連携・協働によるプログラム、また世界的に活躍するアーティストによる作品上演等を通じて、ダンスの創り手の活動支援を行っている。26回目を迎えた今回は、初演以来世界各地で上演を重ね、現在も更新と成熟を続ける振付家の代表作を上演プログラムの中核に置き、作品の本質、その創作姿勢や複眼的な視点を提示することを意図して開催。また国内外の劇場やフェスティバルのディレクター等との交流機会やアーティスト間の対話機会を設けて、創造活動の発展を促すことを目指した。2021年2月4日～21日、横浜赤レンガ倉庫1号館、横浜にぎわい座のげシャレ（神奈川県横浜市）他にて開催。6カ国・38団体が参加、映像上映を含め24公演を行った。



▲コンペティション表彰式 Photo：菅原康太



▲構成力養成講座 キム・ジェドク オンラインWS
Photo：菅原康太

助成を受けて

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、渡航・移動が制限される中での開催となりました。来日が叶わなかったベルギー拠点のアラン・プラテルについては、近年の創造活動の特徴づける4作品(内3作品は日本初公開)を映像上映で紹介し、韓国拠点のキム・ジェドクについては、2008年の初演時から世界30都市以上での上演を重ねている代表作を、新たに映像作品として製作し上映しました。また海外の劇場やフェスティバルのディレクター等の来日が困難だったため、ファイナリストと審査員（海外拠点のファイナリストはオンライン参加）との対話機会を設けました。リアルな上演と映像上映+オンラインでの展開により、今回のコンセプトを変更することなくプログラムを構成できたのは、助成の力によるものと思っています。

本活動は、国際ダンスフェスティバルとして1996年から毎年開催し続けている、その持続性に公益性があると考えます。フェスティバルは既存の概念や境界を飛び越える装置であり、創造性に基づく対話と交流のプラットフォームです。作品の上演だけでなく、多様な交流機会やワークショップ、観客創造のためのプログラム等を行う他、新作の創作や領域横断型のコラボレーションのためのアイデアや場所・資金の提供等、行うべき事は多岐にわたります。近年は特にアジアのダンスアーティストや制作者を含めて、同時代の実践を繰り広げる方々との対話や協働関係を深めることを心がけています。今後も助成を活用させていただき、オリジナリティに立脚して表現する多様なダンスが生まれる創造環境、才能や専門性を社会に繋ぐ環境づくりに力を注ぎたいと思っています。

公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団

〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港 1-1-1 横浜赤レンガ倉庫 1号館

Tel: 045-211-1515 e-mail: ydc@yaf.or.jp

URL: <http://yokohama-dance-collection.jp/>

21 創造都市＝クリエイティブ・シティ実現に向けた『北九州芸術劇場・長期ビジョンに基づく中期計画』

公益財団法人 北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場

助成金額 24,772千円

活動概要

北九州芸術劇場は、目標である『劇場文化の創造』の達成に向けて、舞台芸術を地域や市民に幅広く浸透させるべく、4つの事業コンセプト（「創る」「観る」「育つ」「支える」）を軸に活動を展開。地域の文化拠点として、また九州圏域での劇場芸術拠点としての役割を果たすための事業を行っている。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の発令により、4月9日から6月18日まで臨時休館となり、申請した17事業のうち4事業が中止となった。『モーツァルト歌劇「フィガロの結婚」～庭師は見た！～』『ピーター&ザ・スターキャッチャー』『日本昔ばなしのダンス』『Re: 北九州の記憶』等の作品を上演した他、オープンレクチャー、市民劇場文化サポーター育成事業、各種ワークショップ等、同劇場を拠点として多様な活動を実施した。



▲ R2年度 あそびのじかん



▲ R2年度 Re: 北九州の記憶 稽古

助成を受けて

2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で先の見通しが立たず、事業計画の実施判断は困難を極めました。劇場の臨時休館で中止となった事業もありましたが、10月から再開した自主事業において幅広い世代に質の高い舞台芸術を提供することができました。また、演劇やダンスのワークショップでは、出会いや体験の機会を奪われている子供たちに向けて、新たな価値観や想像力に触れ、視野を広げる機会を提供することができたと自負しています。レクチャー等を通して市民の舞台芸術への理解や興味を深め、地域への浸透にもつながられました。助成を受けたことでこうした成果が得られたと実感しています。

年齢、性別、人種や国籍、宗教、障害の有無など、一人一人異なる背景を持った参加者が一堂に会することで、思いもよらなかった関係性や可能性に気づき、舞台芸術を介した交流によって起きる化学反応を体験し、実感し、他者と共有し合うことで、自己肯定感が高まったり、相互理解が深まったりする場面に、これまで数多く遭遇してきました。地域の劇場が、そのような時間と空間を共有できる“場”を作ることに、大きな公益性があると考えます。今後も、劇場の設置目的やミッション、事業コンセプトに沿いながら、地域のニーズや情勢を踏まえ、作品ジャンルやターゲット等、事業全体のバランスを短期・長期の両視点で考慮し、これまで積み重ねてきた経験や出会いを継続させて、舞台芸術の活動を発展させていく所存です。そのためにも助成金を活用させていただき、長期ビジョンの目標「文化・芸術による創造的な地域の活性化と都市の再生」の実現に向けた事業展開を推し進めていきたいと思っています。

公益財団法人 北九州市芸術文化振興財団 北九州芸術劇場

〒803-0812 福岡県北九州市小倉北区室町 1-1-11

Tel: 093-562-2655 URL: <http://q-geki.jp/>

22 地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業 (公演事業・人材養成事業・普及啓発事業)

公益財団法人 水戸市芸術振興財団 水戸芸術館

助成金額 23,931 千円

活動概要

国内初の芸術監督制度を導入し、2020年に開館30周年を迎えた水戸芸術館は、水戸室内管弦楽団、新ダヴィッド同盟、劇団ACMといった専属の楽団や劇団を組織している。大都市・東京に比較的近い水戸において、東京とは違った特性を発信するべく、地域や施設のポテンシャルを活かした企画に挑み、公演、人材養成、普及啓発において多彩な主催事業を実施している。激変する社会情勢を見据え、当館の持つレガシー（経験・人材・関係性）を地域社会に最大限還元し、市民生活がより豊かになることに加えて、市民が地域に誇りを持てるようになることで、当館が地方創生の一翼を担う存在になることを目指す。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、予定されていた18事業のうち9事業が中止または延期となり、9事業を実施した。



▲水戸室内管弦楽団第106回定期演奏会 ©大窪道治

助成を受けて

2020年度は、コロナ禍により企画が予定通り実施できなくなった中、動画配信企画「おうちで楽しむ水戸芸術館」を立ち上げました。当館プロデュースの音楽劇『夜のピクニック』は、公演を動画配信にも振り替えることで、来館のお客様に加えて1,000人を超すリモートのお客様を獲得できました。感染症拡大防止のため多くの制約の中での実施となった「水戸室内管弦楽団第106回定期演奏会」についても、出演メンバーを国内在住者のみとし、管楽器なしに変更しました。このような形の実施でも、聴く人の心を癒し、元気づけることができるプログラムで市民に寄り添えたと実感しています。こうした活動を大胆に展開できたのは、助成を受けたからこそその成果と思います。



▲音楽劇『夜のピクニック』©刑部アツシ

私たちには基本的人権として、文化的な生活を営む権利があります。生活には人それぞれのスタイルがあり、幅広い選択肢（企画の多様性）と、自由な選択ができる環境（情報格差の解消）が必要です。これも私たちは公益性と捉えています。この視点から、当館は企画を特定の世代や地域に限定せず、また無料を含む幅広い価格帯、初級・中級といった深度にも多様性を持たせられるように企画を吟味しています。その魅力を汲みとり、広く、分かりやすく発信していくことにより、多様性への理解は、促進されると考えます。それが公益性をもたらすのであり、専門知識を持つ芸術監督や学芸員は、そのための仕事に従事していると言っても過言ではありません。活動を通して、市民が芸術体験や非日常体験を渴望したときに、「芸術館に行ってみよう」と気軽に思い出してもらえる“頼れる施設”でありたいと思います。そしてそこでの芸術体験を通して、心の浄化や様々な気付きや学びが得られる、葉でいうところの様々な“効能”のある施設でありたいと思います。

公益財団法人 水戸市芸術振興財団 水戸芸術館

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8

Tel: 029-227-8111 e-mail: webstaff@arttowermito.or.jp

URL: <https://www.arttowermito.or.jp/>

23 子午線の祀り

公益財団法人 兵庫県芸術文化協会 兵庫県立芸術文化センター

助成金額 9,935千円

活動概要

兵庫県立芸術文化センターは、芸術文化の創造と交流を国内外にわたり推進するとともに、舞台芸術を鑑賞、創作、発表する機会を提供し、広く文化の振興を図る拠点として活動している。今回は、首都圏以外では上演が困難とされる大規模かつ質の高い作品を各地の観客に届けるという目標のもと、『子午線の祀り』（世田谷パブリックシアター企画制作、野村萬斎演出）を全国4箇所にて上演(2021年2月21日～3月14日)。KAAT神奈川芸術劇場（神奈川県横浜市）で6回、日本特殊陶業市民会館（愛知県名古屋）で2回、久留米シティプラザ（福岡県久留米市）で2回、兵庫県立芸術文化センター（兵庫県西宮市）で3回の巡回公演を行った。本作品は「平家物語」を題材とした木下順二による不朽の名作で、2017年の初演時には読売演劇大賞最優秀作品賞を受賞するなど芸術的に評価は高い。伝統芸能から現代演劇まで幅広い表現者が結集。演劇に関心のなかった層も来場した。



▲撮影：細野晋司



▲撮影：細野晋司

助成を受けて

新型コロナウイルス感染症拡大が懸念される中、大人数のスタッフ・キャストでの移動、稽古場管理、大規模な舞台美術を仕込むためのタイトなスケジュールなど、感染防止の観点からは課題が山積みで、一時は公演中止も危ぶまれました。しかし制作元の世田谷パブリックシアター及び演出の野村萬斎氏の判断と尽力により、初演時よりキャストの人数を減らし、舞台美術もコンパクトにしてスケジュールに余裕をもたせ、稽古・ツアー前のPCR検査の実施など、感染リスクをできるだけ軽減することで、巡回公演を実行できました。芸術性は高いものの地方公演が難しい大規模公演は、助成金の活用により実現します。地方において等しい鑑賞の機会を提供できたのは、助成の力によるものです。新型コロナウイルス感染症対策も含め、通常のツアー公演と比べて制作元・連携館と緊密に連絡を取り合う必要があり、それを通じて情報の共有や、信頼関係の構築ができたことも、助成による大きな成果と感じています。

劇場として優れた作品を継続的に上演することで、人が集まり、交流が生まれ、地域活性化に資すること、そこに活動の公益性があると考えます。特に今回上演した『子午線の祀り』は「平家物語」を題材とするため、上演した各地にゆかりの史跡等があり、地域の魅力の再発見にもつながりました。本助成金は、目的が明確で、提出すべき証憑や経費の考え方も合理的と感じます。おかげさまで幹事館として、連携館に伝達・説明すべき事項も明らかで、実績報告にかかる負担が軽く感じられました。今後とも助成金を活用し、地方における鑑賞機会を充実させていきたいと考えています。

公益財団法人 兵庫県芸術文化協会 兵庫県立芸術文化センター

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町 2-22

Tel: 0798-68-0223 e-mail: tmiyachi@gcenter-hyogo.jp

URL: <https://www1.gcenter-hyogo.jp/>

24 花束みたいな恋をした

株式会社 リトル・モア

助成金額 22,000 千円

活動概要

2017年放送の人気ドラマ『カルテット』でもタッグを組んだ監督・土井裕泰、脚本・坂元裕二によるラブストーリー。若い男女の恋の始まりと終わりを極めて日常的な描写で綴り、芸術性と娯楽性を併せ持つ作品を目指した。ドラマティックな恋愛映画とは一線を画し、リアリティを重んじた丁寧な脚本をもとに、百戦錬磨の映画スタッフが集結。企画・制作だけでなく、東京テアトルと共にリトル・モアが配給にも関わることで、制作側のコンセプトを観客までダイレクトに届ける事に力を注いだ。息の長い公開となり、今を生きる人のための今のラブストーリーとして幅広い観客に支持されている。2020年1～2月撮影、7月13日初号試写。2021年1月29日より全国劇場公開。上映時間124分。



▲撮影風景 © 2021『花束みたいな恋をした』製作委員会

助成を受けて

自身の企画を製作の主体として成立させ、芸術性と娯楽性を併せ持つ作品を完成させるには、資金面において余裕がなければリスクが増大します。また配給活動を始め事業の主体を担い、継続して活動するためには団体としての体力も必要であり、助成を申請しました。資金力に乏しくとも、良質な映画を作ろうとする団体を支援していただける貴振興会の助成金は、インディペンデントな集団にとって大変貴重です。また、バリアフリー字幕・音声ガイド制作の助成を受けられる事は、特に公開規模が小さい映画を幅広く届けるためには大変有意義な事と思います。



▲場面写真 © 2021『花束みたいな恋をした』製作委員会

ポストプロダクションの期間中に新型コロナウイルス感染症拡大防止のため緊急事態宣言が発出されてスタジオが閉鎖され、スケジュールの大幅な組み換えが必要となりました。公開3週間前にも再び緊急事態宣言が発出され、予定通り公開するか否か逡巡しましたが、映画館と観客に映画を届ける事を選択しました。公開初日までは大変不安でしたが、今を生きる人のためのリアリティあるラブストーリーが、コロナ禍の時代だからこそ幅広い世代に“私たちの物語”として受け止められ、ロングラン公開を実現できました。年齢、男女を問わず多くの観客に支持された映画として、2021年上半期を代表する1本になったのではないかと思います。アジア各国での劇場公開も決定しており、この物語への共感が国境や人種を超えるのか楽しみです。

映画を観た人たちが映画のロケ地を訪ね歩く現象が話題になり、若い世代のSNSでは、映画のシーンを「やってみた」系の動画が溢れました。映画が多くの人の心に刺さり、その人の行動や心の豊かさに影響を及ぼすことができたことに、この映画を製作した大きな意義を感じております。今後も助成金を活用しながら、芸術性と娯楽性を併せ持つ作品製作にこだわり、配給にも関わる活動を推進していきたいと思っております。

株式会社 リトル・モア

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 3-56-6

Tel: 03-3401-1042 e-mail: info@littlemore.co.jp

URL: <https://www.littlemore.co.jp>

25 あの頃。

レスパスビジョン 株式会社

助成金額 10,000 千円

活動概要

バンド「あらかじめ決められた恋人たちへ」のベーススト・劔樹人氏のコミック・エッセイ「あの頃。男子かしまし物語」を原作に、好きなアイドルグループに生きる希望を見出し、他人には滑稽に見えるかもしれない活動に全力を注いだ「オタク」たちの可笑しくも愛おしい姿を描いた青春映画。2000年代はじめに全盛を極め、日本のアイドル文化の土台を築いたと言われるアイドルグループ、モーニング娘。およびハロー！プロジェクトの魅力に目覚め、遅れてきた青春を謳歌する主人公（松坂桃李）とその仲間を中心に、日本のアイドル文化の一端を、国境を越えられる映画というメディアを通して世界に紹介した。今泉力哉監督。2020年2月撮影、同年9月24日初号試写。2021年2月19日より全国劇場公開。上映時間117分。



▲ポスター

助成を受けて

諸々の事情により準備期間が通常より短く、またシナリオのボリュームと制作費に乖離がありました。2000年代前半当時に流通していた実物のグッズ類、音楽、映像を使用して当時のアイドルカルチャー、サブカルチャーを表現するために、不足が予想される制作費を補う目的で助成を申請しました。劇中で使用したアイドルの音楽・映像・音声・画像はほぼ全て当時の実物を使用したため、著作権の使用料・権利処理費が予測の数倍に膨れ上がりましたが、助成を受けたことによりそれらを補填でき、損失を出すことを避けられました。何より、実物を使用することで当時の文化・雰囲気をもよりリアルに表現することが可能となり、助成によって本作の表現は間違いなく豊かになったと思います。



▲場面写真

2000年代、黎明期のアイドルとそれを取り巻くファンの活動は、これまであまり総括されてきませんでした。

本作の公開により、アイドルファン以外の多くの方たちにもアイドル文化がいかにして形成されたのか、その一端を知っていただき、さらにそこから数多くの文化が派生し現在に至っていることを感じていただけたのではないかと思います。また昨今、かつての「何でもあり」であったサブカルチャー、カウンターカルチャーを振り返り、現在の価値観と照らして総括するという動きが活発化しているようです。本作で描かれている2000年代当時のサブカルチャーのノリについても、この映画が、現在との価値観の違いを考えていただくきっかけになったのではないかと思います。

今後も、日本独自の、我々にしか作れない作品を、国内のみならず海外展開も視野に入れて製作していきたいと考えています。過去作においても助成金には大いに助けられており、これからもぜひ活用したいと思います。

レスパスビジョン 株式会社

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-26-15 秀和代々木駅前ビル4F

Tel: 03-3478-0728 e-mail: tasaka@lespacefilm.com

URL: <https://lespacefilm.com/>

26 名付けようのない踊り

株式会社 スカイドラマ

助成金額 16,970千円 (2か年度助成)

活動概要

近年では俳優として国際的にも活躍する田中泯。だがその本分は1970年代のデビューから現在まで一貫して「ダンサー（舞踊家）」であり、国内外での公演を数多く行い、「場踊り」と呼ばれる即興的かつ実験的なダンスを実践し続けている。また1年の3分の1は山梨県にある自宅と畑で過ごし、「農民」としての側面も持つ。そんな田中と映画『メゾン・ド・ヒミコ』（2005年）以来幾度となく仕事を共にしてきた映画監督・犬童一心が、約2年半にわたり田中の劇場公演や「場踊り」を記録し、田中が実践する「名付けようのない踊り」の本質に迫るダンス・ドキュメンタリー。田中泯の踊りそのものと一体化していくかのごとく、観る者を新しい映画体験へと誘う。2017年8月～2020年3月撮影、2021年3月23日初号試写。2022年1月より劇場公開予定。上映時間114分。



▲◎「名付けようのない踊り」製作委員会



▲◎「名付けようのない踊り」製作委員会

助成を受けて

「ポルトガルのフェスティバルで踊るので一緒に行きませんか？」という田中泯さんの誘いを受け、折角の機会なのでプロのカメラマン2人を同行して撮影した事がそもそもの始まりです。その映像から長編映画になる可能性を感じ、この映画の製作を決めました。映像で「踊り」を体感させるのに必要なのは高い技術、高画質であると確信し、ドキュメンタリーではありながら劇映画のカメラマンと4K撮影の機材を使用して長期の撮影を行ったため、自己予算では難しく、田中泯さんの踊りを今の世に問う重要性も鑑み、助成を申請しました。撮影量が膨大で長期のオフライン編集となり、また2020年春に海外で撮影予定だった公演が新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止となったことから、様々な点で変更を余儀なくされました。新たに使用することにした過去の公演写真の著作権処理、海外作曲家の既成曲に関する権利交渉も大変でしたが、助成を受けたことでこれらにかかる費用を賄え、世界的なアニメーターである山村浩二さんにクオリティの高いアニメーションも依頼でき、高度な映像表現が実現できました。強い独自性を持つ田中泯さんの踊りの魅力を、その場で体感し得る映像美と音響で残せた事に大きな意義があると考えます。このコロナ禍にあって、個性の強い文化・芸術を残すことを目的とする事業に対する費用を集めるのは至難の技ですが、助成によって関わる方たちへの報酬の支払い等を心配する事なく、スムーズに仕事を進められました。

今後も独自性の強いアーティストや、年齢的にも今撮影しておかなければならない方たちを取り上げた上質なドキュメンタリーを作り、未来の観客も見据えて、今まで培った劇映画の経験にドキュメンタリーの面白さを加味した新鮮な映画作品も生み出していきたいと思えます。

株式会社 スカイドラマ

〒156-0054 東京都世田谷区桜丘 5-44-2-101

Tel: 03-6323-1022 e-mail: reception@skydrum.co.jp

URL: <http://skydrum.co.jp/>

27 ジョゼと虎と魚たち

株式会社 KADOKAWA

助成金額 20,000 千円

活動概要

青春恋愛小説の金字塔と謳われ、実写映画版も高い評価を得た田辺聖子による同名小説を、新たにアニメーション映画化。車椅子というコンプレックスを抱えながらも飾らずに生きる女性ジョゼが、夢を持つ大学生・恒夫と共に外の世界に飛び出し、多くの“初めて”を経験しながら、恋愛、友情などを通して自分の生き方も見つめていく。アニメーションならではの技法によるジョゼの内面世界の表現や、魅力的なキャラクターデザインにより、実写映画鑑賞世代である30～40代に新たな“ジョゼ”を楽しんでもらうと同時に、原作小説や実写映画認知のない層でデジタル世代の10～20代もターゲットとして、映画史に残る作品を目指した。

2017年3月より脚本制作、2018年10月よりコンテ制作、2019年8月より作画、2020年1月より撮影。同年9月3日初号試写。同年12月25日より劇場公開。上映時間98分。

助成を受けて

ファンタジー性が受け入れられやすいアニメ映画の中で、市井の人々の日常を描く作品は予算が限られますが、アニメスタジオのボンスが描くハイクオリティーな映像でキャラクターの心象表現、美しい背景美術、スピード感のあるシークエンスを描くため、助成金を申請しました。助成金が決定したことで、撮影や作画をより集中して行うことができ、作中ではキャラクターが人魚となり水没した都市を悠々と泳ぐシーン、物語のキーとなる夕焼けに染まる海岸線を緻密な色使いで映し出したシーン、本業作家に依頼した圧巻の絵本のシーンなど、鑑賞者の心に残る映像を制作できたと思います。

結果として本作は、第25回釜山国際映画祭にはクロージング作品としてワールドプレミア上映、第33回東京国際映画祭にて特別招待作品としてジャパンプレミア上映、第44回日本アカデミー賞アニメーション作品優秀作品賞受賞、アヌシー国際アニメーション映画祭2021の長編コンペティション選出など、世界に誇る“ジャパンアニメーション”として評価され、国内外の映画ファン・アニメファンに、日本の女性作家が描いた文芸小説原作の世界観を、アニメーション作品という形で広くアピールすることができました。また、色褪せぬ作品を再度アニメーションとして鮮やかに社会に届けることで、新型コロナウイルスに苦しむエンタメ業界に明るさをもたらしたと思います。

ジャンル化されたアニメ作品の本数が年を追うごとに増え、アニメファンに供給されていくなか、デジタル技術を生かした表現、今までにない作品性、新興メディアでの映像提供を意識し、アニメ業界の裾野を広げるような活動をしていきたいです。助成金もぜひ活用したいと思っています。



▲© 2020 Seiko Tanabe/
KADOKAWA/ Josee Project



▲© 2020 Seiko Tanabe/
KADOKAWA/ Josee Project

株式会社 KADOKAWA

〒102-8177 東京都千代田区富士見 2-13-3

URL: <https://www.kadokawa.co.jp/>

芸術文化振興基金への御案内

芸術文化振興基金は、国の出資金と企業等から寄附金を原資として創設され、我が国の文化芸術活動に助成し芸術文化の振興普及に寄与しています。

この基金の創設にあたり、その趣旨に御賛同の上、多額の御寄附をいただいた企業等は次のとおりです。御支援に深く感謝いたします。

支援企業グループ

建設	昭和電工(株) 積水化学工業(株) 第一三共(株) 三菱ケミカル(株)	楽器	太陽生命保険(株) T&Dフィナンシャル生命保険(株) 東京海上日動火災保険(株)
青木あすなろ建設(株) (株)安藤・間 (株)大林組 鹿島建設(株) (株)熊谷組 佐藤工業(株) 清水建設(株) 積水ハウス(株) 大成建設(株) (株)竹中工務店 戸田建設(株) 飛鳥建設(株) 西松建設(株) (株)長谷工コーポレーション (株)フジタ 前田建設工業(株)	石油・鉄鋼 出光興産(株) 日本製鉄(株)	印刷 大日本印刷(株) 凸版印刷(株)	日本生命保険相互会社 富国生命保険相互会社 三井住友海上火災保険(株) 明治安田生命保険相互会社
食品	機械・精密機械 日本精工(株) HOYA(株) (株)リコー	百貨店 (株)高島屋 (株)三越伊勢丹ホールディングス	不動産 住友不動産(株) 東急不動産(株) 三井不動産(株) 三菱地所(株)
アサヒグループホールディングス(株) 味の素(株) キッコーマン(株) 麒麟ホールディングス(株) サッポロホールディングス(株) サントリーホールディングス(株) 雪印メグミルク(株)	電気機器 沖電気工業(株) キヤノン(株) コニカミノルタ(株) (株)JVCケンウッド シャープ(株) ソニー(株) TDK(株) (株)東芝 日本コロムビア(株) 日本アイ・ビー・エム(株) 日本電気(株) パイオニア(株) パナソニック(株) (株)日立製作所 富士通(株) 三菱電機(株) (株)村田製作所	銀行 (株)新生銀行 (株)みずほ銀行 みずほ信託銀行(株) (株)三井住友銀行 三井住友信託銀行(株) (株)三菱UFJ銀行 三菱UFJ信託銀行(株) (株)横浜銀行 (株)りそな銀行	輸送 カトーレック(株) 全日本空輸(株) 東急(株) 日本航空(株)
繊維	輸送用機器 トヨタ自動車(株) 日産自動車(株) 本田技研工業(株) 三菱重工業(株)	証券 SMBC日興証券(株) (株)大和証券グループ本社 野村証券(株) みずほ証券(株) 三菱UFJモルガン・スタンレー証券(株) 山一証券(株)	観光 (株)JTB 藤田観光(株)
東洋紡(株) 東レ(株) (株)ワコールホールディングス		保険 アクサ生命保険(株) 朝日生命保険相互会社 ジブラルタ生命保険(株) 住友生命保険相互会社 損害保険ジャパン(株) 第一生命保険(株) 大樹生命保険(株) 大同生命保険(株)	出版 (株)講談社 (株)小学館
パルプ・紙			広告 (株)電通 (株)博報堂
王子ホールディングス(株) 日本製紙(株)			通信・その他 (公財) 清栄会 (公財) 全国税理士共栄会文化財団 日本たばこ産業(株) 東日本電信電話(株)
化学・医薬			(令和3年9月現在 順不同)
花王(株) (株)資生堂			



芸術文化振興基金による助成

目的

「芸術文化振興基金」は、すべての国民が芸術文化に親しみ、自らの手で新しい文化を創造するための環境の醸成とその基盤の強化を図る観点から、芸術家及び芸術に関する団体が行う芸術の創造又は普及を図るための活動、その他の文化振興又は普及を図る活動に対する援助を継続的・安定的に行います。

助成対象活動

◆芸術家及び芸術団体が行う芸術の創造・普及活動

- オーケストラ、オペラ、室内楽、合唱、バレエ、現代舞踊、演劇等舞台芸術の公演活動
- 文楽、歌舞伎、能楽、邦楽、邦舞等の伝統芸能の公開活動
- 落語、講談、浪曲、漫才、奇術等大衆芸能の公演活動
- 美術の展示活動
- 国内映画祭等の活動
- 特定の芸術分野にしばられない公演・展示活動

◆地域の文化振興を目的として行う活動

- 文化会館、美術館等の地域の文化施設において行う公演、展示その他の活動
- 歴史的集落・町並み、文化的景観の保存・活用に直接資するセミナー等の催し物、資料収集・作成、普及啓発による保存活用活動
- 民俗文化財の公開、広域的な交流、復活・復元による伝承、記録作成による保存活用等の活動

◆文化に関する団体が行う文化の振興、普及活動

- アマチュア等の文化団体が行う公演、展示その他の文化活動
- 伝統工芸技術、文化財保存技術の保存伝承、公開活用、記録作成による保存活用活動、衰退した伝統工芸技術の復元活動

令和4年度募集から、基金の助成制度の枠組みを一部変更しました。

- 助成金の額の定額制（採択時に助成を受けられる額を明確化）
- 助成対象経費の選択制（助成金支払いに係る提出書類の軽減）

詳細は、下記ウェブサイトの各支援区分のページをご覧ください。

<https://www.ntjjac.go.jp/kikin/lp/2021/bosyuu.html>

目的

国からの文化芸術振興費補助金を財源として、我が国の芸術団体の水準向上及びより多くの国民に対する鑑賞機会の提供を図る優れた舞台芸術の創造活動、国際的な実演芸術の公演活動、劇場・音楽堂等が主体となって行う実演芸術の創造発信等、並びに優れた日本映画の製作活動を支援することを目的としています。

助成対象活動

◆舞台芸術創造活動活性化事業（※）

- 音楽・・・オーケストラ、オペラ、室内楽、合唱等
- 舞踊・・・バレエ、現代舞踊、民族舞踊等
- 演劇・・・現代演劇、児童演劇、人形劇、ミュージカル等
- 伝統芸能・・・古典演劇（歌舞伎、人形浄瑠璃、能楽等）、邦楽、邦舞、雅楽、声明等
- 大衆芸能・・・落語、講談、浪曲、漫才、奇術、太神楽等の公演活動

（※）支援の区分には、複数の活動を含む3年間の活動計画に対して継続して助成を行う「複数年計画支援」と1活動に対して助成を行う「公演事業支援」があります。

なお、「複数年計画支援」については、芸術団体の集客努力や収益力強化を促すため、入場料収入や寄付金等収入の額、有料入場率の結果に応じて助成金の額が変動する仕組みを導入しています。

また、「公演事業支援」については、これまで当該事業の助成を受けていないが、昨今の活動の発展が目覚ましく、将来性に期待ができる団体の新規参入を促すため、法人設立から10年以内の団体のみが申請できる「ステップアップ枠」を設けています。

◆国際芸術交流支援事業

- 海外公演
- 国際共同制作公演（海外公演・国内公演）
- 国際フェスティバル

◆劇場・音楽堂等機能強化推進事業

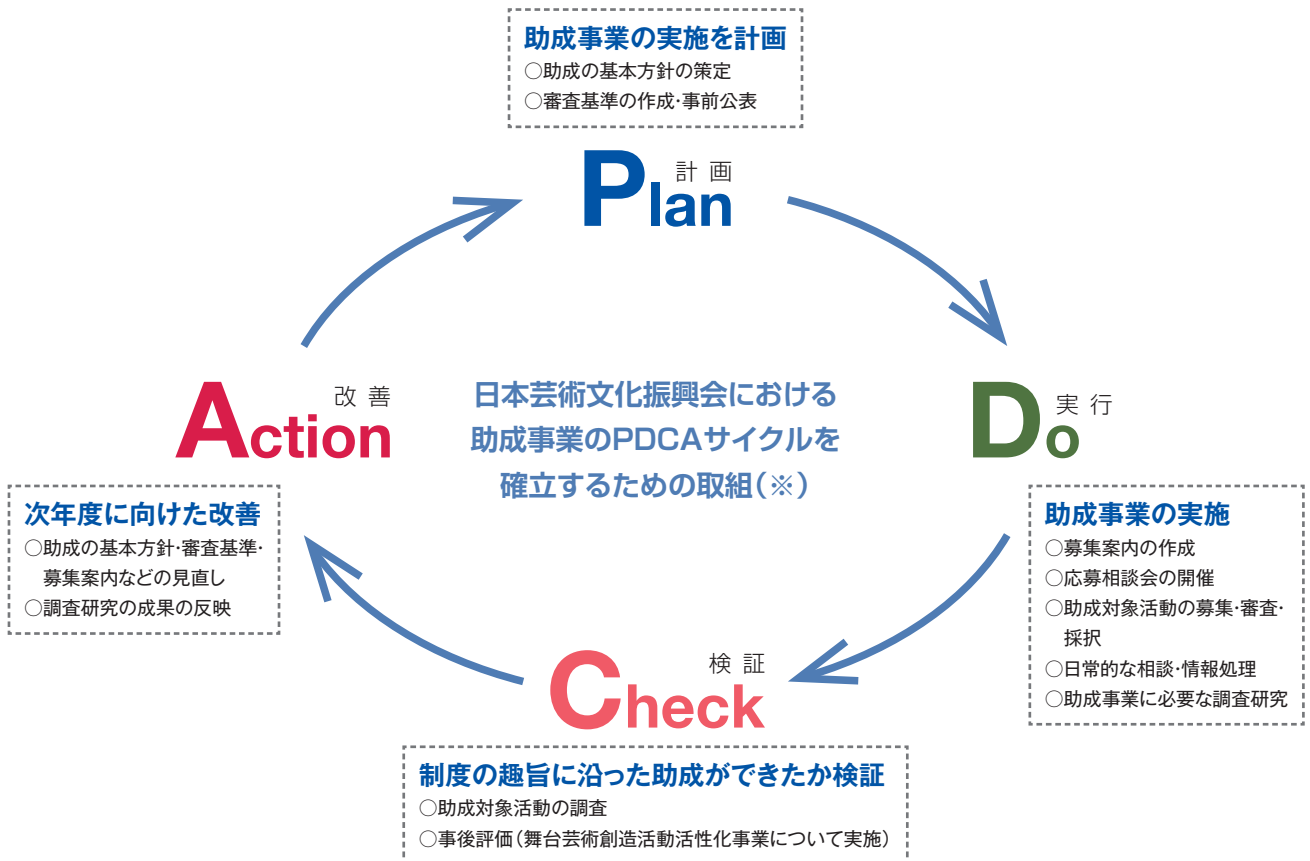
- 劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業
- 地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業
- 共同制作支援事業
- 劇場・音楽堂等間ネットワーク強化事業

◆映画製作への支援

- 劇映画、記録映画、アニメーション映画

文化芸術活動に対する 助成システムの機能強化について

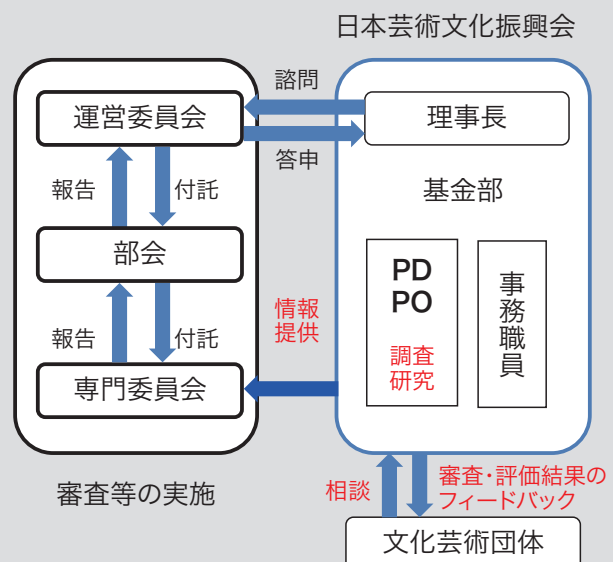
日本芸術文化振興会では、文化芸術活動に対する助成システムの機能強化に取り組んでいます。具体的には、音楽、舞踊、演劇及び伝統芸能・大衆芸能の4分野について、専門家であるプログラムディレクター（PD）とプログラムオフィサー（PO）を配置し、その知見を活かして助言、審査、事後評価及び調査研究等の充実を進めています。



※ PDCA サイクルとは：計画の作成、計画に沿った実行、実行の結果を目標と比べる検証、発見された課題に対する改善の4段階を繰り返すことで、事業の質の向上を目指す取組です。

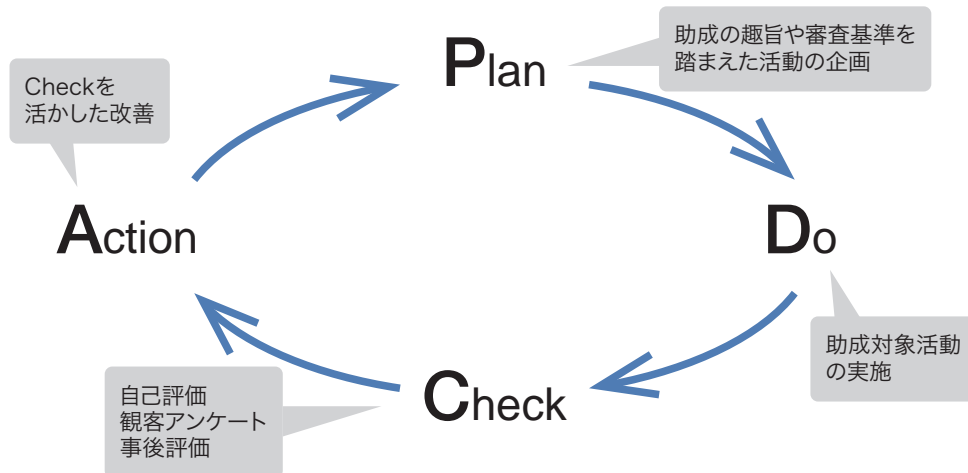
取組の実施体制

芸術文化振興基金運営委員会は、助成対象活動について、採択に係る審査のほか、事後評価に関する審議及び決定を行います。PD・POは、専門的な視点から運営委員会などに対して情報提供を行うとともに、審査・評価の結果を文化芸術団体にフィードバックします。



助成を受けた文化芸術団体も、団体としてのPDCAサイクルが必要です。

助成対象活動の実施が文化庁の政策目的の実現につながったかどうかについて、文化芸術団体自らが評価を行い、事後評価の結果も踏まえながら、改善を行っていく必要があります。



文化芸術への公的支援に関する考え方はどう変化していますか？

平成23年2月8日に閣議決定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針」（第3次基本方針）では、「従来、社会的費用としてとらえる向きもあった文化芸術への公的支援に関する考え方を転換し、社会的必要性に基づく戦略的な投資と捉え直す。」とされました。

したがって、助成金の交付対象として採択するかどうかを判断する場合には、助成金の趣旨に沿った活動かどうかに加え、「戦略的な投資」にふさわしい「社会的必要性」を踏まえた活動計画になっているかどうかを考慮することになります。

当振興会の助成金に応募される文化芸術団体には、助成金交付要望書を作成するに当たり、当該活動の展開を通じて、社会にどのような波及効果を及ぼすことが見込まれるのか、分かりやすく説明していただくこととなります。

詳しくはHPをご覧ください→ <https://www.ntj.jac.go.jp/kikin/artscouncil.html>

助成システムの充実のための具体的な取組は？

プログラムディレクター（PD）・プログラムオフィサー（PO）制度	文化芸術に関する専門家であるPD・POを配置し、その専門的知見を活かして、文化芸術活動に関する助成システムの充実を進めています。
審査基準の作成・事前公表	要望書提出期間の前に、日本芸術文化振興会のホームページに採択に当たっての審査基準を公表していますので、文化芸術団体は、各助成金の目的や、活動内容に何が期待されているかを知ることができます。
文化芸術団体からの相談への対応	活動の企画に当たって不明な点や、参考となる先行事例等についてPD・POに相談できるよう、日本芸術文化振興会のホームページに連絡先を掲載しています。また、全国で応募相談会も開催しています。
助成対象活動の調査	助成対象活動が採択に当たり期待された成果を挙げたかどうかを検証するため、PD・PO等が実際に公演に赴き、調査を行っています。
事後評価の実施	助成対象活動が採択に当たり期待された成果を挙げたかどうかについて、公演調査の結果や実績報告書等に基づき、評価を行っています。評価結果はPD・POを通じて各団体にお伝えしますので、次回の要望に向けた改善に活かしてください。
調査研究の実施	助成事業の効果の検証や改善に資する資料とするため、調査研究に取り組んでいます。

発行日 _____
令和3年11月1日

編集発行 _____
独立行政法人
日本芸術文化振興会 基金部
〒102-8656 東京都千代田区隼町4-1
☎03-3265-6302
URL <https://www.ntj.jac.go.jp/kikin.html>

